

1. 件名:「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-106)、廃棄物管理施設(81))」
2. 日時:令和5年10月10日(火) 13時30分~16時30分
3. 場所:原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部
核燃料施設審査部門
(原子力規制部新基準適合性審査チーム)
長谷川安全規制管理官、岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、
上出安全審査官
日本原燃株式会社 技術本部 土木建築部 部長 他1名
株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長
5. 要旨
 - (1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年10月2日の提出資料に基づき、以下の事項について確認を行った。
 - ・耐震設計の基本方針に関する建物・構築物の入力地震動の算定に用いる地盤モデルの設定について
 - (2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。
 - ・耐震設計のうち岩盤部分の物性値については、グループ毎に設定する物性値の妥当性について、建物・構築物の直下又は近傍の地盤構造を模擬できるものとなっているか、引き続き技術的な観点で説明を行う。
 - ・耐震設計のうち岩盤の非線形性については、検証に用いている応答スペクトルの作成条件及びその妥当性の考え方を説明する。
6. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
7. その他

提出資料
なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html
- ・ 令和5年10月2日
「日本原燃（株）再処理施設、MOX 施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい。録音開始しました。
0:00:03	それではただいまから日本原燃株式会社とのヒアリングを開始します。
0:00:08	本日のヒアリングは、令和4年12月26日に申請があった、日本原燃再処理施設の設工認申請について、
0:00:18	10月2日提出の資料をもとにヒアリングを行うものになります。
0:00:24	まず規制庁側の出席者ですが、本庁会議室から、カミデハバサキキノ。
0:00:32	以上となります。
0:00:35	それでは日本原燃の方から、出席者の紹介と、議題の構成の確認、説明範囲達成目標を説明してください。
0:00:46	はい。日本原燃事務局の中浜でございます。
0:00:50	日本原燃側の出席者紹介いたします。
0:00:54	Steeringチームのノモト、サポートメンバーで、オガセ、
0:01:00	あと三菱重工様からサトウ様。
0:01:04	東電設計様よりウノ様。
0:01:07	とウェブでの参加となりますが、大林組様から、ワダ様。
0:01:12	衛藤六ヶ所側の方で事務局参加させていただいてございます。
0:01:18	本日ご確認いただきます資料でございますけれども、先週の金曜日の続きとなります耐震建物08の、
0:01:26	本日は菅本部分の物性値等の設定。
0:01:31	及び岩盤部分の剛性の非線形に係る検討について。
0:01:36	二つの因子についてご確認いただく予定となっております。
0:01:40	それでは、説明の方開始させていただきます。よろしくお願いいたします。
0:01:45	はい。よろしくお願いいたします。
0:01:50	はい。日本原燃の大戸でございます。それでは、
0:01:55	まず岩盤物性を短期にやっていただいてそれから非線形かなと思っておりますけどそれでよろしかったでしょうか。
0:02:09	はい。結構です。
0:02:12	はい、承知いたしました。それではまず岩盤特性の当方のご説明でございます。

0:02:20	これにつきましては大変建物0 牧野アノ本文と、それから気比の方でまとめさせていただいているところでありますけれども、
0:02:33	別紙の方ですね、別紙2-1の1ページ、2から、右膝の消費税77ページから、ぜひ、ここで言ってるところでありますけれども、
0:02:49	ここに固定しておりますようにですね今回フローを他の章と合わせる形についていただきまして、この処理につきましては特にですねこのフローの中で、
0:03:02	①のABCっていう形で、この各グループにおけるPS検層に基づく、構造及び速度構造の方、それから、直下または近傍にピーク計数がないイセポップスにおける、
0:03:18	PPAと欠陥適用性の確認、それから傷構造速度構造の平均化の確認とこの三つの
0:03:26	各検討のステップを検討を行う条件とともに整理かということでございます。
0:03:31	具体的にはですね検討の手順というのは、引き、2-1-4 てっから投資経費の70、
0:03:42	9ページの80ページから記載してございまして、各々の検討のですね適用条件に係る整理というのは、別紙2の7-8ですから、ページ84ページの第3-2表で、
0:03:57	決めかけていただいているところということでございます。
0:04:02	で、各ですね2番にOK括弧ですねグループにおける検討の内容は、別紙2の1Qか右側の通し85ページから、竹山ゴトウタカヤグループごとの検討を、
0:04:20	お示しているところでございます。
0:04:24	で、参考のですね、参考資料として、参考1期では、旧鎌田金峰でPS検ワタヒキされていない建物構築物通知調査データ及び岩盤統一を引き、
0:04:40	参考2で速度境界で谷番を問い与える影響、それから、炭鉱をたんびに、
0:04:59	参考3で、記述構造違う踏まえた平均化の可否の確認のちょっと具体の詳細評価を行うものを参考に観光さんに来ていただいていると。
0:05:10	いたような構造になってございます。
0:05:13	でですね参考2のところ、特にですね直下はない。
0:05:21	すいません。それでですね、直下に県、
0:05:28	と、

0:05:30	PS検層がない節減体制、すいません。ない、基盤グループにて、建物に関してはちょっと申し上げてきましたけども、境界ピースゲートがない建物に対しての、
0:05:46	PS検層適用性につきますので、
0:05:52	投票際に、検討が必要なものを参考に切り出していくこと固有値の比較ということで、整理はしておるんですけども、ここです、ちょっとデータがですねご提示できていないと。
0:06:08	号炉があるというのをすいませんちょっと申し上げるのもちょっと抜けておったのは申し訳なかったんですけども、別紙 2-1 の 35 ページのところ、四角の中にちょっと書いてございます。ここ営業グループの検討の、
0:06:21	結果を示すところなんですけども、参考に 1 件等ですね、このところですね公益の企画だけでなく、オートスペクトルの比較もご定義する形で、最初の
0:06:38	あれですね。すいません。武については 5 適切ですけれどもちょっとその他の関係について、このえっとですね、一つの施策というのは、後でできておりませんでちょっとここでまた追ってデータを
0:06:57	追記して、提出させていただこうというふうに思っているところでございますこれちょっと申し遅れておりました申し訳ございません。
0:07:07	ご説明以上でございます。
0:07:12	規制庁の岸野です。はい。ご説明ありがとうございます。
0:07:17	それでは規制庁から古野が資料について事実確認をしたいと思えます。どなたかありますでしょうか。
0:07:23	と規制庁カミデです。最後に説明あった追って続いて、
0:07:28	もう 1 回ページ番号から教えてもらっていいですか。
0:07:35	はい。さっき最後に申し上げておりましたのが、神戸の 36 号日ページの 111 ページ。
0:07:48	ところで、
0:07:52	企画課込みで参考に、気密検討については操作グループにおけるイシイについてするというのが四角で書いておるんですけども、これ何のことを申し上げても、
0:08:04	出るかと言いますと、ぜひ、
0:08:10	すいません、参考にですね参考 2 のところの、
0:08:30	もう日々、270 ページ、200、
0:08:38	すみません、いや、70 ページというところで、インフォテリアの検討といったしまして、こういう周期、

0:08:49	の比較、それから、1、すいません、江藤トヨシマ 272 ページで、加速度のスペクトルの
0:09:01	比較というのを実施しておるんですけども、そのほかの一方のですね 272 ページ以降のところ、今、
0:09:12	このスペクトル比較が載っていない状況にあるかと思えます。これちょっとご提示の江藤大瀬データのご提示が今できない状態であるということをご申上げました。以上でございます。
0:09:26	規制庁カミデです。それと3の、
0:09:32	第3のニイツから、
0:09:35	第3-8図の2分の2にあたるデータがまだ入ってませんということです。
0:09:46	はい、原燃野元でございます。その通りでございます。
0:09:50	はい。規制庁亀井です。わかりました。四角いものはもうちょっと表紙なんかでわかるようにはしていただきたいなと思うんです。あと進め方でも、
0:10:01	ちゃんとケアしてくださいねっていうのはあるんですけど、とりあえず状況、わかりました。はい。
0:10:09	元の方でございますはい。その辺がちょっと足らずだったというのは反省するところでございます。申し訳ございませんでした。
0:10:17	はい。規制、了解。
0:10:19	あとは、77ページのフローの、これってあれなんですね別紙に飛んできてから、第2回申請に対してのフローです。
0:10:29	第1回とはまた別ですっていうことなんですよ。
0:10:41	はい、土橋でございます。77ページでよろしかったでしょうか。すいませんちょっと今、言葉がくびれたもので、
0:10:48	はい。77です。はい、かしこまりましたアノ77ページの表につきましては、今赤嶺さんおっしゃった通り第2回のところの今回やった内容のフローということになっております。第1回のところの、
0:11:01	話というのは第別紙1に該当するんですかね。今ちょっと今回は省略していますけど経営と営業のところで行っているところで、それぞれ、データ通りに集めてこういうふうを設定しますというふうに行っていますのでこの別紙の中でのフローという意味ではあくまでこれは第2回に絞ったものという位置付けになっております。以上です。
0:11:20	はい。規制庁カミデです。ただ、設計方針は一緒ねえ。

0:11:27	地質、地質地盤、要は建物の設置されている周辺の状況をしっかり考慮して、評価していきます、入力地震動を作りますっていう方針は一緒なんですよ。
0:11:41	はい。元の方でおっしゃる通りです方針は本文に書いているものも一つのフローにしましたので、第1回第2回問わず一緒というふうになります。で、ごめんなさい先に言ってしまうんですけども、今回第2回につきましてはこういうことを書くべきなのかなというのも含めて言うんですけども、
0:11:56	やっぱり第1回の時っていうのは個別の建物は1個だけのものが4とPAで一つずつあったところでしたが、今回は建物がある程度我々グループ化した上で、藺田総代含めての確認ですけども、普通の建物に対するの確認をするものになるので、
0:12:13	そういうふうなそういうやり方にのっとったフローというのをちょっと第2回でスペシャルに起こす必要があるとは考えました。以上です。
0:12:22	規制庁神谷です。何で複数だからっていうのが入口に入るのか、私はよくわかりません。
0:12:31	内野管理官がまとめていいじゃんって言った話で、
0:12:36	そんな話にはならないんです。
0:12:40	して、おんなじ考えでやっていくときにもクソおんなじ考え方なんだけど、この辺はグルーピングできるっていう考えが、
0:12:49	あつてのことだと思ってるんですけど、何でいきなり、
0:12:54	複数まとめてっていうのが、まず最初にあつてっていう考え方なのかがよくわかりません。
0:13:02	日本原燃はてすいませんグループありきということで行ったわけではないところです。77ページのフローをちょっと見ていただきたいんですけども。はい。
0:13:12	結局、入口は一緒なんだけど、出口は違ってますね。そこしか今はわかんなくて、
0:13:20	どこまでは一緒です。ここは一緒なんだけど、ここだけは、第2回スペシャルやってるんですけどもかまさに複数が複数やりたい。
0:13:32	がためにこういう控除が入っているんだとかですね、もうちょっとこう、
0:13:38	最初っから分けずに一体として説明して欲しいなっていうのがあの前から言っていることなんですけど。
0:13:46	相変わらずその辺がよく見えないんですけどね。何かその辺が、
0:13:50	もうちょっとその本文とかでも、

0:13:53	ちゃんと
0:13:54	一緒に同じ考え方なんですっていう形で説明して欲しいと思ってるんですけどいかがですか。
0:14:03	はい。元年度は、ニイツ、理解しましたありがとうございます。今、実際変わっているところといたしましては 77 ページのフローのうち、
0:14:13	二つ目の四角の新設する建物グループの設定から、一番下のダイヤモンドそのグルーピングが適切かというところまで、いわゆるこの第 2 回ではグルーピングっていう新しい概念ができておりまして、その検証まで含めてっていうところの、
0:14:27	グループの設定の妥当性確認というところが追加しましてそれ以外は一緒だというふうなことになります。ですので、ちょっと本文のところでも、きちんと緒ないし近傍のデータを使ってそれを基づいて物性値決めてばらつきを決めてっていうようなところは変わらない一貫しているというところなんです、
0:14:44	とじ込みでこのグループの設定とその妥当性の確認、適切性の確認というところがあり得るところを、本文で、明確にした上で、その入る部分の説明が別紙 2-1 のメインですよっていうところをちょっとご説明するような形でちょっと踏めばいいのかなと思いました。以上です。
0:14:59	そうです。すいません日本原燃の郷でございます。ちょっと上流のところを、我々の考え方について少し補足させていただくと、
0:15:10	本文で、まず 6 ページ通しページ 6 ページのところ全体で全体のフローは第 1 回第二課同じがあると。
0:15:20	いうことを示しつつですね第 1 回と第 2 回でこういうグルーピングの考え方が新たに入ってきたというところの説明は通しページですね 23 ページに延びなりと、
0:15:35	いったようなところで、今回のまでの形成のですね考え方として、地盤モデルをこういうふうにして考えて設定するんですと。
0:15:47	いうことを述べております。その後段としてですねそれぞれ第 1 回第 2 回で、2 番の結果考慮したパラメーターは、これを、を基にしてどういうふうに決めるかといったようなことが、として、25 ページからの説明に繋がって
0:16:04	今第二課のですね、答えがこの別記 2-1 の方に飛んでるような状態になっているというような構成ですので、整理としては我々総務文教流から言ってなかったつもりではオクと。
0:16:20	いうところでございます。

0:16:22	で、ちょっとそこがあれですかね
0:16:26	読みづらいついていうことをおっしゃっていただいているのかなとは思ったので、先ほどちょっとオガセが申し上げたような、少しその記載を少し追記する形で読み切れるような、
0:16:41	形にちょっとさせていただくのかなというふうには思っておりました。すいませんちょっと認識違いがありましたらご指摘いただければ幸いです。以上です。
0:16:50	あと、規制庁カミデです。今説明のあったところだと 23 ページの、
0:16:58	複数あるから、グルーピングしますっていうのが、それだけじゃないでしょうっていうのが問題意識の
0:17:07	根底にあるところだと思ってください。
0:17:11	要は、近くにある。
0:17:14	ものであればどうだからグルーピングしていいんですか。それは地盤物性がそう大差ない変わらない。
0:17:23	から、グルーピングするんじゃないんですか。
0:17:31	はい。玄野本でございます。そうですね。2 番のこの 12 のグループそのものは、基盤どっちを見てグルーピングした。
0:17:45	というよりは地盤物理としては、大局的には西ヒガシ中央のそれぞれで、概ね、似た構造であるという、
0:17:57	ことを念頭に置きながら、近接するその建屋のグルーピングとして、それなりの大きさのものでグルーピングしたということなんだというふうには、
0:18:10	思っております。で、そういうことをあらかわせるためにですね今の 23 ページの記載では、大局的に教員ヒガシの三つのエリアに分かれていて、
0:18:26	それぞれのエリアで複数のものが近接して廃棄されているのを踏まえて、近接する建屋グループ単位で検討を行うということでこういうグループを行いましたというそういう大洲の方に今ちょっと考えている。
0:18:40	変えていくということになってございます。以上でございます。
0:18:47	はい、規制庁上津わかりました。あくまでも元はヒガシ中オオニシっていうのが、
0:18:54	エリアであって、それぞれごとに一緒だと。だから、さらにまとめるっていうのは、何となく近くに建物があるからっていうことなんですね。
0:19:08	はい。玄野元でございます。はい。その認識でございます。六ヶ所側からもし補足があればお願いします。

0:19:20	日本原燃のオガセです。今野元さん言っていたところ自体ははいその通りだと思います。はい。
0:19:32	はい。規制評価ビジネスわかりましたというか、
0:19:36	それだとあれですね 77 ページで、
0:19:40	近くにPS検層こうあるかどうかとか、もう関係ないですね、
0:19:47	やんなくていいんじゃないですか。無駄ですよ、これ、ロジック的に関係ないすもん。
0:19:56	元ノモトでございます。ここは、キョッカにないもので、近傍でのPS検層でその建屋の
0:20:07	許可であるとみなしてるのが正しいのかということの補足が必要だという認識でここはまとめているものでございます。
0:20:17	どうでしょうか。原燃は中央な中を全部一緒だって言ってるわけじゃないですか。何で確認するんですか。
0:20:26	原因の方でございます。一緒だっていうことではなくてやっぱ違うから分けてはおるんですけれども、概ね似たものということでは2ヒガシ中央だと。
0:20:37	いうくりににはなるのだろうなというふうに思っているところです。で、
0:20:42	この12グループっていうのは、
0:20:45	地盤の様態によってグルーピングしたわけではなくて、やっぱりそれなりに近傍のデータをとるべきという前提から始まって、その近傍といえる、阪急をこのようにグルーピングしたと。
0:21:00	いうところが引っ張ってんだったのかなというふうに思ってるところでございます。以上です。
0:21:07	と規制庁カミデその出発点の認識はとりあえず違います。
0:21:13	違うけれども、一概に否定することもないので、とりあえず、このままいても平行線ですから、
0:21:20	という感じですね。そう。そうなんですね。
0:21:24	何となくなんだと思いました。はい。
0:21:29	日本原燃のオガセでございますちょっと今のやりとり踏まえてなんですがごめんなさいさっき言ったこととちょっと違うことを言うことになって大変恐縮です、今回我々の基本的な方針としましては建物構築物の直下近傍でやりましょうねというところがまず一番最初のスローガンになりますと、
0:21:47	それでいった時には当然各建物個別の直下近傍をやっていくという話であるんですが、先ほど中央東日というふうな話でした、地質の構造っ

	という観点で見たら、大体その近から辺ってというのは一緒だろうというところがまず地質構造のうちの地盤モデルの構成のところでご説明している内容です。
0:22:07	ね、そこでいえるというところになっています。一方でその近く、地質的な構造が一緒であっても速度構造が一緒かどうかまではわからないので、本当にその速度構造をまとめるとかっていうのがまさにこのグルーピングの考え方をやっていいのかっていうところの確認は、
0:22:23	やはりここで必要であろうというところがありますので、だからちょっとそういう速度構造まで含めたグルーピングの可否というところをちょっと今回確認するというようなそういうようなことを第2回でやっているのかなというシナリオの方が、
0:22:35	何となく、今の松丸で前提としては正しいのかなという気はしました。以上です。
0:22:41	はい。井清とカミデです。
0:22:44	それがあるから、いろいろ検討がある。
0:22:48	思ってますね、だからそういうシナリオというかロジックに沿った形で、検討を位置付けて説明をちゃんとしてくださいねって言おうと思ったんですけど。
0:22:59	何かうちで全然違うこと言われたんで、ちょっとまとめましたが言いたいことは理解いただけました。
0:23:07	はい原燃のオガセでございますちょっと地質構造と速度構造一緒くたにちょっと述べていくようなフローになっているところなので、多分77ページのフローなんかもいきなりグループをバンと仮置で決めちゃってるようなところがあるのでそこに至る話をちょっと。はい。東。
0:23:22	なんですかね。そういう思想の転換みたいなところはちょっと変えて、思想の展開ですかね、みたいなところをちょっと足すようにしてみたいと思います。以上です。
0:23:32	はい。規制庁亀井です。今話があってその速度構造が同じであろうという前提でグルーピングをするんだったらそのグループをしたところの結果として、
0:23:43	大体同じぐらいの速度構造でいけそうだねとか何かそういう検討がないと、そういう結論がないといけないので、その繋がりのところ、
0:23:54	ちゃんとしてくださいという意味でした。はい。

0:23:58	はい。日本原燃のオガセでございますかしくまりましたそういう、何とかであろうという話だとかこういう検討を、今回建屋に直下にないところの地下構造を見てきて、
0:24:10	同じとみなせる速度構造だとかってやるところが何でそういうのをやるのって目的書くというところ、あと各検討の多分結論のところも同じようなそれに鏡家になるような、だから多分速度構造として一緒にいいんだみたいなそういうふうな指名になるようにちょっと下記載の一貫性を持たせるように、
0:24:25	はいちょっと気をつけて資料見直してみたいと思います。以上です。
0:24:30	はい。規制庁深見です。あと、
0:24:32	77 ページなんかでいうとそのグループのところの話だけMOXと違いが、MOXなり4ビーカと違いがあるって言われてましたけど、
0:24:43	フロアの下の方のばらつきだとかその辺の考え方もMOX、
0:24:48	第1回と第2回で特に変わらないうことでいいですか。
0:24:55	日本原燃のオガセでございます。第1回るときもばらつきの設定自体はありました。ただ第2回の違いはその母集団のとらえ方、先ほどまで
0:25:05	第2回で差し込みになりましたよっていう場とグルーピングの話とかも踏まえて、そのばらつきをとるための母集団の考え方はちょっと変わってくるころありますが、そのばらつきを設定しますというフェーズ自体は第1回第2回共通のものと考えております。以上です。
0:25:20	うん。
0:25:21	成長亀井層ありました中身じゃなくてタイトルで同じかどうかって説明されてた。
0:25:29	現年オガセすみません確かに、第1回の、うん。ちょっと、
0:25:34	挙手への別紙、別紙2を見てみて、すみませんちょっと章的なタイトル的なところをちょっとすみません、1回見て、整理しますんで本堂もちょっと、
0:25:44	今度でも何か共通的なところが見えるようにするのが大事だと思いました。以上です。規制庁カミデスマミアノ77はもう、第2回に限っちゃったプロなんでいいんですけど本文のところ、
0:25:57	同じ考えなのか特徴によって違うのかそもそも違うのかみたいなのは、ちゃんと書いていただいと。
0:26:06	はい。以上です。
0:26:11	はい。本郷監事。はい、かしくまりました。はい。
0:26:17	はい。すみません。以上です。

0:26:21	施設のキシノですね。
0:26:25	ちょっと今の話から、全体の話からですね、具体的に、
0:26:30	77 ページの流れに沿った具体の中身の確認について、ちょっと私の方から幾つかあるんですけども、
0:26:39	77 ページの①-a以降の内容っていうのは、
0:26:46	80 ページ以降ですね。
0:26:50	説明がされている内容だと思うんですけども、
0:26:55	例えば 80 ページの 3 ポツ 1 というのは、見いだしの後に、先ほどの 77 ページの図の①の、に対応するといったような、
0:27:04	説明がされているんですけども、77 ページのその説明とここでの説明内容との対応っていうのをもう少しちょっとわかりにくいところが、
0:27:14	ありますが、この 3 ポツ 1 の、2 パラグラフ目に具体的なことがいろいろと書いてあるんでその内容の確認をしたいんですけども、
0:27:25	パラブラふうですね。
0:27:28	1 行目から、地質柱状図に断層が確認できる建物等においては、
0:27:34	断層の影響も、PS検層結果に考慮する、されるため確認は行わないと。
0:27:41	さらに、通曉下の方に行きますと、
0:27:52	岩盤分類図より、断層が確認できる建物構築物は確認しますというふうにあって、
0:28:02	速度構造、断層の影響を確認するしないっていうのはまずここでいきなり判断が分かれています。
0:28:08	ですけども、
0:28:09	これは 77 ページのフロー図がどこに対応するのか教えていただけますか。
0:28:14	はい。日本原燃のオガセでございます。これにつきましては市のの中での確認事項というふうに考えております。何かと言いますと、真下をこう断層がこうぶった切ってるような場合というのは、
0:28:29	これの速度構造に不連続性みたいなのが考えられるところでございます。そこでPS検層をやっていれば、ベースケースをやっていればなんですけどそういった速度が途中で何か、
0:28:40	断層のせいで急に大きくなったりとか急に何か逆転で小さくなったりとかみたいなのはすでに見れる形にも我々のPS検層結果というのはデータとしてあるんですが、一方でご存知の通り建物の直下にPS検層がないところがありますと、

0:28:55	face検層結果がないようなところというのは、地質構造を見るしかないというところになっておりますので、その地質構造の並びとかを見てあげて、その断層その影響によって速度構造に影響あるかどうかというところはやっぱり別途の検討でちゃんと確認しなきゃいけないよねというような意味で、
0:29:13	先ほどの3ポツ1のところは書いておりましたのでちょっと確かに、今読んでいて岸野さんの読まれているところを見ていってもちょっと何かわかりにくいなという気もしたので言葉はわかりやすくすると、化しようとは考えております。
0:29:25	ただ位置付けにつきましてはI-Aの中での検討項目というような配置になります。以上です。
0:29:32	規制庁、金です。
0:29:33	そうしますと77ページの検討フローっていうのは全体の検討や判断の分岐点等を説明したのではなくてそれらも含みおいた大きな流れを示している。
0:29:44	実際の具体的な個別の判断っていうのは、このフロー図の中では現れてないっていうか隠れてる中に行われていて、その具体的なその検討の流れとか判断基準の説明ってのはどこでなされている。
0:29:59	かっていうのがちょっと読み取れないんですけど、そういった説明はないということですか。
0:30:06	はい。日本原燃のオガセでございます。細かいところの消防とのフローみたいなのか、
0:30:14	を書いているわけではないのは実態です。考えの流れとしては今、先ほどご紹介した3ポツ1のところを書いていたつもりではあったんですけども。はい。今は細かいところまでの間以内ですんで、
0:30:27	ただ判断基準というお話があったんですけども、こっつ断層がどのぐらいならあると判断するしないとかいう判断、考え方ではなくて断層があるないとかっていうふうなところ、
0:30:39	さらにそれぞれの影響があるかどうかというところの観点先ほど、前回からもお示ししている保有周期とかあと応答スペクトルの影響とかそういうふうなところの観点で確認をして個別に考察をしていくこととなりますので、あくまでこの判断としましては結論としてはあれなんですよね。

0:30:57	14 ページに一覧表を示してありますが、それぞれの建物について、こういう観点での検討をやっていくかというちゃんち、それをまとめたものがその 84 ページになるのかなというふうに考えて作っております。
0:31:10	伊藤です。
0:31:13	津野です。前段のご説明で 3 ポツ 1 の説明の中で、その判断基準とかは書いたつもりということだったんですけども、
0:31:23	私の読み取り力が多分足りてなくて、何をおっしゃってるのかなというところがありますんでちょっとそこについて確認したいと思います。
0:31:32	80 ページ 3 ポツ 1 パラグラフ目の、
0:31:39	一行目。
0:31:40	地質柱状図に断層が確認できる建物構築物というものと、
0:31:46	もう少し下の方に行く。
0:31:49	明日の方にある岩盤分類図より、断層が確認できる建物構築物という、この両者の違いが、
0:31:58	わからなくて、
0:31:59	例えば 7 月以降ですね、何度かヒアリングで、
0:32:03	説明を求めてきた G14 という建物があったと思うんですが、
0:32:08	この J14 の、
0:32:10	もともとモデルを組もうとしていた根拠の PS 検層、
0:32:15	D、断層が通ったと思いますけど、44 の建物直下ってのは PS 検層データがなかったんですね。
0:32:22	なので、先ほどの 2 パラの説明だと、岩盤分類図より断層が確認できる建物構築物、
0:32:31	該当すると思うんですけども、そうすると断層の影響を確認することになるんですが、その理由、理解で合ってますでしょうか。
0:32:40	日本原燃のオガセでございます。まず PA 等、3 ポツ 1 の文章で PS 検層があり、
0:32:50	地質柱状図に断層が確認されるというものと、あと岩盤分類図から断層が確認できるの違いについては、PS 検層結果があるかないかの違いだということ考えてございます。
0:33:01	一方で今岸野他おっしゃっていただいた G14 のところが、ページでいくと、
0:33:08	後ろの方なんですけど、
0:33:14	120 円。
0:33:15	4 ページ、40 ページ、すみません、お願いいたします。

0:33:23	はい。4 ポツ 11 日 14 グループというところになっております。ここにつきましては、今岸野さんおっしゃっていた通り断層があるというところで今までのヒアリングでもご説明しているところでございます。
0:33:36	そこにつきましてはPS検層結果がえられていてそれによる断層の切り替わりによる速度の何ていうんすかね残差みたいなところっていうところは、すでに考慮がこのPS検層でされているんでここは直下と直轄という微妙かもしれないですけど近傍にはあるところですので、
0:33:51	24 近傍としてはそれはそれで一応見るのは問題ないようなものだと思っておりますので、断層の影響を考慮した、その速度構造としてはこのG14 近傍のPS検層を使っているというところ、ただ次重要それで終わりじゃないというのは我々も認識しているところでございまして、142 ページの最初ですから、すみません、回答させていただきます。まず最初の質問。
0:34:11	直下にPS件数あり話は、岩盤分類図で見るか、断層がある話だっていうのは、直下のPS検直下のちゅう柱状図に断層が確認できるっていうのは直下または近傍のが正しいということですか。
0:34:31	はい。日本原燃の加地ですその通りの認識でいます。はい。
0:34:36	津野金です。各グループごとに、何らかPS件数は、その建物の直下になくても、近傍にはあったと思いますんで、
0:34:46	すべてのグループがこれに該当するっていうふうに、
0:34:49	も理解できるんですけど、それは正しくないですか。
0:34:55	元ノモトです。すみません。ちょっと現代で申し訳ないですけどオガタさんこれはあれですよ直下に近傍にはあるけれども直下にはないタテヤノ。
0:35:05	検討をどうするかというそういう命題だと私は思っていたんですけども。
0:35:13	だからこの直下にPS検層があると今岸野さんがご指摘の第2パラグラフのところは、別に直下期及び近傍ではなくて直下で、これは間違いがないっていう認識なんですけども、
0:35:29	うん。日本原燃のオガセでちょっとすみません図で見ましょう79 ページをちょっとご覧いただければと思います。
0:35:42	こちらの図にある通りではあるんですけども、
0:35:47	どこが0としているかな。
0:35:52	思っているか。
0:35:54	例えば、DCたデイ・シイグループなんかをちょっとご覧いただければと思うんですけども、

0:36:01	一番左下のところですね、これ今アノてしていタテアノ西滑り2アノ系、ⅢAS筧ババⅢ項があると思うんですが、これで我々としてはA. Cの建物の直下または近傍にあるものなので、イシイの特徴をとらえた、PS検層1だというふうに認識しております。
0:36:22	はい。なのでちょっと及び近傍というのが大事だと思っています必ずしもぴったりとかないといけないというものではないかなと思っているので一方で44のところを見ていただきますと先ほどのDCと同じような形で、南のへりのところにもほぼ接するような形で、
0:36:37	このケース検層方法ありますのでこれは次14.のサポートというものを表せているであろうというふうに位置付けているところでございます。こういうふうに、直下または近傍に建物がPS検層を有する建物構築物、
0:36:52	これの集合体としてグループがあるという認識でおりますので、
0:36:57	はい。今の近傍直下にはないけど近傍だと、すいませんあのなんかあの直下のデータにはないという、そういう話にはならないのかなというふうにはいちょっと思っている次第です。
0:37:09	例年の、ごめんなさい、えっとね、ちょっと私はずれたら申し訳ないんですけど、今の話は、右下80ページの、
0:37:19	3ポツ1のⅡパラグラフ名、建物構築物のうち、直下について書いてあるんだけどこれもこれは直下にだけで良いのか、直下に及び許可及び近傍なのかというこういうご質問やと私は認識してるんですけども。
0:37:33	日本原燃のオガセでございます。ここの②につきましては、直下でいいと思いますというのもこれ岩盤分類のところだと思っておりますので、
0:37:43	あくまでPS検層が例えばなくて、地質構造を見に行かなければならないといったときには当然地質構造はある程度新名ところに聞いてますので、そのときには、イダの直下のところの情報をちゃんと見に行きますというようなそういう位置付けだと思っております。
0:38:00	ここはだからちよ谷が正しいっていうお答えでいいわけですね。
0:38:06	はい。岩盤分類図を見るときには、岩盤分類図に基づく地質構造が違います。そこではないです岩盤分類図による、より確認できることなく、
0:38:17	もう1回言いますね、右下80ページの、
0:38:20	3ポツ1期のⅡパラグラフすなわち3行目です。
0:38:26	3行目の建物構築物オオウチ4日にここです。
0:38:30	日本、日本原燃はごめんなさい3ポツに同じ紙といいまして申し訳ありません。すいません3ポツ1の3行目、建物構築物のうちの段落の段

	落のところですね、これの直下のところは直下及びまたは近郊では問題ない。
0:38:46	ここはだから許可にではなくて許可及び近傍に伊賀の近傍が抜けているってということですか。おっしゃる通りですね。はい、そうです申し訳ありません。
0:38:56	そうすると今岸野さんがおっしゃってるのは、直下及び近傍には必ず我々PS検層持ってますよね。
0:39:06	だからグループができてるわけじゃないですか。
0:39:10	だからあるなしを議論してるのが何か論理的に矛盾してませんかって秋野さんおっしゃってるんだと思うんですよ。
0:39:17	で、我々今あの直下がない、あの建物があるからそれを検討するっていうことになってたんじゃなかったでしたっけ。
0:39:32	規制庁の木曾です。今野本さんがおっしゃっていただいた通りで、何を対象に、ここで説明しようとしてるのかってというのは、今ひとつ判然としないんですね。
0:39:42	先ほど緒方さんが例示をしていただいたように次 14 ナカは、建物のへりの方にあってこれを直下というのか近傍というのとはともかくとして、
0:39:53	それぐらい建物にぎりぎりもかすめるぐらい近いものは、
0:39:57	直下にPS検層があり、に含まれて、そうでなくて、同じグループだけど、同じグループの離れたところ、別の建物の直下とかに、
0:40:09	あるPS検層を適用するかどうかという時には、その校舎直下にはない施設っていうふうに分けていると。
0:40:16	ということでもいいですか。
0:40:18	日本原燃は清さんがやってることはそういうことです。79 ページの図でいきますと、
0:40:24	例えばF施設周辺なんかを見ていただければなんですよけれども、直下または瀬シンボっていうか接するとかそっちの方が、気持ちとしては合ってるんですけども、
0:40:35	F、タテこのF施設周辺の真ん中のおっきい建屋のところにつきましては直下近傍は非常にいっぱいあるところなんですけども、この右上のF案Aとかその右左下のエフアールビーとか、
0:40:46	あとは上の方にちょっとアノシマシマで書いてる建物ですね、FCTAFCMとかその辺につきましてはいわゆる直下近傍としてはちょっとないってところがあるので、これについては地質構造を見に行きましたというようなそういうところになります。あとわかりやすいところとしては、

0:41:01	あれですかね、さっきも話あったG、違うか。
0:41:05	DCかDCのところで話しましたところの、DCの北川にある、米だけ。はい。のところは、はい。
0:41:13	接してるような近傍のところにいわゆる直下の物性を示すような、何だ。衛藤PS検層がないので、地質構造を見に行きましたというそういうことをやっていますのでそういう意味では直下近傍という意味がですね今ちょっとダブルスタンドになっちゃう。Wの。
0:41:27	意味を何か二つの意味を持つ言葉が出てきちゃってるなという感じがありましたので、ちょっとここをちょっと明確にする必要があるのははい。認識しました。
0:41:35	室長の岸野です。はい。多分そこが明確になっていないのがその冒頭のカミデとのやりとりの中で、
0:41:42	大局的に3エリアに大きく分かれるけど各エリアの中でも同じなんですよっていうような認識で、各グルーピングってのは何となく近くにあるものをグルーピングしてるだけですよという
0:41:52	ご説明多分そういうご認識がまだ残ってんじゃないかなと。だから、同じグループの中では特に地質構造の違いはないんだというような前提がどうもどっかに残っててこういった言葉遣いの整理っていうのができないまま、
0:42:06	特に近傍もごちゃごちゃになっているような感じもします。冒頭のやりとりです、大庭さんから地質構造は大局的に同じでも速度構造が違うかもしれないんで、
0:42:18	そこら辺を見ていくんですっていう、その人シキイが明確であればですね今言った言葉の整理というのもできるんじゃないかなと思ったんですけど。
0:42:27	いかがでしょうか。なんかまだ認識図がありますんで原燃の方ですおっしゃる通りですね、さっきの上出さんとのやりとりの中で出てきた地質構造は
0:42:38	いわゆる地中オオヒガシみたいなのとその建屋の近くのところで一緒かもしれないば何ていうんすかね速度構造としては、果たして本当に一緒だろうかという話を踏まえると、その直下の
0:42:49	速度構造を示すようなPS検層孔というところに着目してそういうのがないような建屋西アノに対して値、ここに今回やってるような検討を見ていくっていうような流れになりますのでそれやっていけばおのずとちょっとはい。どういうPS検層項を、

0:43:05	各建屋直下の速度構造を表すものとして選定するみたいな説明が出てくるかと思しますのでちょっとそういうふうに、すみませんさっきのコメント会社の中での冒頭からの考え方の展開みたいなところを話していく中で、この、
0:43:19	見ていくデータの考え方というところも、はい。一緒に整理していくような形で記載の方ふやしていきたいと思います。以上です。
0:43:27	規制庁の岸野です。はい。その認識のもとで検討を進めていくのがこの80ページ3ページ以降だとしますと、この3ポツ1の2パラグラフの説明に戻ってしまうんですけども、
0:43:40	まず、1行目ですね。
0:43:43	どっかにBSがあって、地質柱状図に断層が確認できるものは、
0:43:48	断層の影響も考慮されるため、
0:43:51	断層が与える影響の確認は行わないって書いてあるんですけどね。それは、
0:43:58	どういう意味で、なぜそう判断できるのか。
0:44:02	という理由も書いてないんでこれを説明いただけますか。
0:44:07	はい、元のオガセですこれまたすみませんさっきの話Cと同じ流れだと思んですけども、断層があるところはちゃんと断層とらえた速度構造にしておくのが大事だよっていうところだと思っております。
0:44:19	ですので、その断層取ってるところの建屋直下または接してるようなところ、どっかの速度構造として断層の影響はちゃんと考慮できているものがある場合にはそのデータで十分、
0:44:31	確認できているとは判断しますというようなそういう意味合いで書いております。
0:44:37	都築です。はい。意味わかったんですけども、
0:44:41	地質柱状図に断層があれば、確認しなくて良いっていうのは、なぜそういえるのか教えていただけますか。
0:44:51	日本原燃大橋ですちょっとあれです。ここについては、直下にPS検層があつてかつ、
0:44:57	断層が確認できる程度の構築物ですので例えば柱状図に、地質だけ取ってるようなボーリングで柱状図は、に断層があるねっていうだけでしたら、それは当然下の方のところのアノ断層の
0:45:10	影響確認を絶対必要断層が速度構造に与える影響の確認というのが必要になりますが、柱状図に断層があつて、かつそのフェーズ検層の

	データ速度構造が取れているという場合にはデータとして十分だろうというような意味、意味合いです。
0:45:25	規制庁の岸野です。そこがなぜそう十分といえるのかまだわからなくて、
0:45:31	例えば、先ほど例示されたヒガシはエリアのG14 っていうのは、建物にかすめる欠かせないか、南東の端付近にPS検層
0:45:42	あって一応これを、直下ないし近傍ですか、にPS検層があるというご説明だったんですけども、
0:45:50	このPS検層では、SF6 断層ですかね、それがPS検層の中ほどとって
0:45:58	いて、 おそらくそのPS検層は、断層の影響というのはどういったものか私には想像がつかないんですけども、何らか影響を受けたものだろうと思
0:46:08	います。で、これまでのヒアリングで何とかこのG14 を提示して、SF6 断層の、
0:46:16	今日ですね、SF6 断層よりも、南東側によるPS検層の
0:46:22	結果でもって今地盤モデルを組もうとしているけれども、次 14 の直下
0:46:32	って、SF6 断層の 上盤側下盤側っていうんすかね。両方持っている。つまり、ATS検層では、深いところで従うが出てくるんでしょうけれども、浅いところの下盤側
0:46:47	ってのはとらえられてないようなPS検層 なので、次 142、それを、
0:46:50	何も文句なし適用できるんですかっていうのを説明を求めてたと思うんですが、
0:46:56	今のご説明だと、PS検層で、そういった影響も全部加味されているんで、これ使っておけば、断層を挟んで、
0:47:07	両サイドの地盤地下構造とか速度構造が違いなんかも全部表現できま
0:47:18	すと、そう判断したということでもいいですか。 一原燃のオガセでございます。142 ページのところをちょっとご覧いただければと思います先ほど話そうとしたところでちょっと、
0:47:26	1 回止まったところだったんですけども、
0:47:31	今につきましてはこのG14 グループ呉というところにつきましてはG36 っていうようなところ断層を挟んで向こう側のボーリングPSケースを取
0:47:43	れてるところの断層を挟んで向こう側のところの、 に対しての検討を行っているところなんですけれども、そこにつきましては、その地下構造地質構造をちゃんと見た上で、その断層によるソウ

	ノ上下みたいなところが影響なさそうだとこの確認はやっていて、特に問題はなさそうなところの考察がえられているところです。
0:47:59	ただここはやっぱり岸野さんもお説明されている通り、結構落差なのでかい断層だということもありますので一番最後に、下線で引いているところでございますけれども、SF6断層の北側の方、今あるPS検層の逆側のところの番ですね。
0:48:13	のところの追加ボーリング調査を行ってちょっと追加調査を踏まえた検討が必要だなというふうなところでこういうフカホリのところは必要だという認識でいるところでございます。以上です。
0:48:23	清町の岸野です。そのご説明だとするならば結局追加調査結果が出るまでは、結論は出せない。
0:48:29	ということですね。
0:48:30	途中で私が質問した、直下のPS検層で断層が確認されている場合は断層の影響も加味されてるんでっていうのは、実は説明できなくて、追加調査の結果を待たなきゃ。
0:48:42	何とも言えないと、そういうご説明と聞こえたんですけど、それでいいですか。
0:48:50	はい。日本原燃の大橋でございます。今現状としてこの142ページの河川変えているところの前までのところで前回もご説明しているところのものでございますけれども、やはりそういう断層を挟んでのところで、地質構造のソウノ、
0:49:05	アダチがあったりとかというのは当然あるというところでそこについて応答に与えるような影響というところないし速度構造自体に与える影響というところ嵯峨断層がずれていたとしても、結局同じ速度層の
0:49:18	A層がずれているだけであまり速度構造に影響なさそうだとかですねそういうような検討でもって、この断層の影響は入力地震動の算定については与える影響小さそうだという結論は一応出した上で、やはりこういうところの追加調査の結果、
0:49:31	当然我々としてそこもやるというふうになっておりますのでそれを当然最後無視することはいたしませんので、そこに対しての見解も述べさせていただきますと、そういうような位置付けになってございます。
0:49:41	室長の岸です。追加調査の位置付けは、ちょっと今のご説明とトーンダウンしちゃったんですけど、結局、追加調査を待たずとも説明はできると。

0:49:50	それを裏付けるために追加調査をやるというような説明になっちゃったように思ったんですけど、どっちなんですかね。
0:50:03	原燃の大口でございます。えっとですねここ検討を重ねればいろいろ我々も言いたいことを結構ちょっと言ってしまうたりもするんですけども、
0:50:14	もう正直言いますとここ追加調査いたしますんで、それをもって判断するという事なので、追加調査をですね元に判断することだよねというご質問に対しては、イエスだというお答えに終わるかというふうに思っ
0:50:31	てございます。ですんで、説明できるんだけどもお念のためとかいろいろちょっとそういうふうなことは、もうちょっとこのためにですね、いろいろ議論を重ねるのもちょっとオウム 1 かなというふうにも我々も思いますしやっぱりもうデータはですね、出たなりで、
0:50:48	ちゃんと判断したらいいかなと思いますので、ここに出たものでご判断すいませ判断をさせていただくということと、いうふうに認識してございます。以上です。
0:50:59	全長のキシノです。そうなりますと 77 ページの検討フローってどうなるんですか。
0:51:06	この下は、
0:51:09	いけそうなんですか。
0:51:11	全農でございます。この検討そのものはですね、この追加調査の結果を踏まえて各段階での検討を見直すべきところは見直して最後結論に持っていくということですので、前回はですね追加調査の結果を踏まえて見直すべきところがあれば見直すとは。
0:51:30	いう立場に立つものだというふうに考えてございます。以上です。
0:51:37	規制庁の千野です。
0:51:41	検討は、大きな流れを示してるものだから、追加調査という文言はこの中に出てこないような感じがしますが、これをちょっと加えて見直しますっていう。
0:51:52	矢印を加えれば今の説明になっちゃうのかもしれないんですが、
0:51:57	じゃあ、このフローの中で例えば先ほど①のに対応する説明が 3 ポツの説明ないけどって言ったら、この中に全部、
0:52:06	含まれてますっていうなご説明だったんですが、このフローには表れていないナカノロジック。
0:52:13	例えば、直下の PS 検層孔で断層が確認されてる場合は断層の影響はないと判断するっていうあたりも、

0:52:21	変わってきちゃうか。
0:52:23	それともこれはこのままで、
0:52:26	一定でも追加調査で全部そう見直しをかけるということなのか。
0:52:31	それはどっちなんですか。
0:52:39	現在濃度でございます。すいませんちょっと聞き逃したら申し訳ないですけども直感に、DS許可及びあれですね、近接スルーようなところにペース検層は、
0:52:51	それ、断層が確認できる場合っていうのはこれはもうすでにデータがあるので、これについては考慮ができています。
0:53:03	いうところは多分揺らがないんだというふうに思ってますんで、その上で、そのないときに、どう判断するかのところですね、新たにデータがとられたもので、
0:53:16	このですね、
0:53:20	新たな判断材料が出てきたならば、それをもとにしたそれはもうすでに許可なり近傍なりのものが、もう一度取られたということになるので、それをもとにした判断になるということになるのかなというふうに思ったところでございます。以上です。
0:53:35	清町の岸です。ちょっと理解及ばなかったんですけど、80ページ3ポツ1の説明ロジックは変えないと、多分そういうことをおっしゃったのかな。
0:53:44	思いますので、そうだとするとですね、先ほども質問したんですけど、直下にPS検層があつて10上手に断層が確認できる場合は、
0:53:54	断層の影響は確認を行わないと判断できるのはなぜなのでしょう。
0:54:00	という質問に戻っちゃうんですけども、それを説明できるんですか。
0:54:12	玄神野でございます。ちょっと六ヶ所側から補足をしていただければありがたいんですけどもこれは許可に、すでに許可のデータとしてPS検層に基づく、
0:54:23	結果があるので、このPS検層結果と人の岩盤物性も水素この直下の本としてとられていてそれに基づいてその構造も、
0:54:36	決定しているので、ダントーがあればあったなりの、その地図なり構造なり、速度構造なりというのをすでに、網を考慮した形で設定できているので、改めて何か企業検討で捕捉するというのではなくてこのデータで、
0:54:54	対応できると。ただ、ない場合は周辺のデータから補完するような形で設定するのでその場合は、検討が必要であるという構図だと私思ってるんですけどもそういうデータですか。

0:55:06	はい元オガセ今はそういう構成になってます。はい。
0:55:14	清町の岸野です。
0:55:17	わからないんですよ。直下にPSケースがあって柱状図断層ができてたら、そのPS検層結果で断層の影響が考慮されてるんでもうこれ以上の確認は行わないって説明されてるんですよ。
0:55:30	で、もともと等が疑問だったのはその次 14 の下にSF6 断層ってのが知ってて、
0:55:38	どちらかというF6 断層の上盤側を主に拾っているPS検層のデータでもって、
0:55:45	経井清F6 断層の下盤側で、主に構成される自重直下の地質構造で、
0:55:52	表現できるんですかということなんですが、
0:55:57	特に根拠もなく、SF6 断層の上盤側
0:56:02	を審議するPS検層結果で説明。
0:56:05	できる適用できるんです。だから確認を行わないっていうのが今の現状の説明だと思うんですね。
0:56:11	なんでそれでいいんですかっていう質問にはちょっと答えてくれてないと思うんですけども。
0:56:16	問題意識ってまだ伝わってなかったということでもいいんですかね。
0:56:38	ツツミの質問の意味がわからないようであれば、逆にどこがわからないとか言っていた方がいいと思うんですけど。
0:56:55	元の方でございます。ですね、
0:57:02	今のお話は、G14 のグループの中の、次 14 建屋のことをおっしゃっていると。
0:57:11	いう意識で、
0:57:14	よろしいですよ。七、八日です。
0:57:18	はい。2 リニュー4 建屋については、そのヘリのところに相当するところでボーリングが取られている。
0:57:32	で、
0:57:34	いうことを、
0:57:36	でよろしいですよ。
0:57:39	はい。その人ですね、めりでとったときに、このボーリングを取ったときに、
0:57:49	これが日比ではなく、ヘリといっても、にヘリとヒガシヘリがあってニシウチとヒガシヘリでは、
0:58:00	この断層跨ってるんだからして、許可構造が、

0:58:05	イシューではなくなるんじゃないかっていうことをおっしゃってるってことですか。その通りでして、どっかも断面図で例示してますけど、253 ページに、
0:58:18	面図が載っているかと思imasuのでそちらを見てみてください。
0:58:24	あげんの方でございますそうするとこの建物の中で、ここ 1 次元で一様の地盤として扱うのが正しいのかどうかというお問い合わせ。
0:58:39	何だということでしょうか。ツツシミズはい。G14 の下に、SF6 断層という赤い線が中に入っていて、その図の右側だと、
0:58:50	断層の上盤側が主体。
0:58:53	で、左側だと下盤側が主体になってきて、今PS検層っていうのは、G14 という建物右端付近でこられているので、ほとんど上盤側の地層構造速度構造をとらえている。
0:59:06	でもG4 っていうのは、SF6 断層の下に下盤側も現れてきていて、解放基盤表面の上ですね。
0:59:15	大変これも考慮した、1 次元地震応答解析をやることになるかと思うんですが、
0:59:22	今、
0:59:23	右側でとらえたPS検層でやっちゃうと、上盤側の速度構造しか考慮されないことになってってしまうのではないかというのが疑問ですので、次 14 の、
0:59:34	下に出てくるSF6 断層の下盤側も考慮した、地盤モデルにしなくていいんですかという質問をこれまで何度かしてきたつもりなんですけど、今のカッチいただきました。
0:59:49	現にノーでございますおっしゃってること理解いきたくつもりでございます。イマダ値と同じ建物本の中で、
1:00:00	許可にないものが、ちゃんと表現できているのかという観点で、これ我々、この日をまとめてきたつもりであるんだけれども、
1:00:12	同じ建屋の中で、この断層が近傍にあるものは、その直下での傾斜もポーン考慮して、
1:00:24	このPS II 検層位置でのデータを適用していいのかどうかと、いうことの検討が必要であると。
1:00:35	いうこういうことをおっしゃってるんだと思うんですけれども。すいません。先ほど有井麻生です。今経営者とおっしゃいました、経営者も関わるかもしれないんですけれども、

1:00:46	単純に考えたときに、G14の宮路付近のPS検層で、地盤モデルをG需要に対して組んでいかどうかで見たときに、この断面図を見たら、
1:00:58	SF6断層を挟んで、ガラリと左側で地層構成が変わってるよね。
1:01:04	で、ミナガワでしか取ってないPS検層の速度構造。
1:01:08	左側に使っているのかなという疑問が普通湧くと思うんですよ。
1:01:13	というのは、断層を挟んで右側というのは宇和版、
1:01:19	ピンク色のDPTなんていう層が上にのし上がってきて、
1:01:25	一方左側の下盤側というのは、その下にメディコぐらいの低いところにきていて、衛藤解放基盤表面よりも上の層構造も、
1:01:39	数十メートルの落差とか言ってますけれども、
1:01:42	下盤側に出てくるDSPTよりも上の層だとかは、右側では出てこないわけですから、PS検層なんか設定しようがないんじゃないかなと、Vsとかの数字はですね。
1:01:56	なのに、どうやってやるのかわかりませんが、SF6断層の右側の、
1:02:01	PSPS検査の結果を、
1:02:04	文字上に全全部に当てはめると、
1:02:08	ここでは出てこないような層構成は次14の直下には出てくるのに、そんなことを考えなしに与えますそれでいいんですかっていう説明を求めてきているんですけども、
1:02:20	それに対するお答えってのが、さっきの、いや、東側のPS検層で断層とらえてるんで、これで全部表現できますっていうご説明だったので、何でそうなんですか。
1:02:31	判断根拠なんですかっていうの。
1:02:33	質問しているわけなんですけど、
1:02:36	うん、お願いできますか。2年ノットでございます。はい。今おっしゃっていただいた5件に対する答えは、今の検討の中ではご説明できてないというのを認識いただきました。
1:02:53	で、これは何か検討をちょっとまたさしていただいて提出させていただくことになるのかなという認識なんですけども、六ヶ所側から何か確認したいことございますか。
1:03:06	はい。日本原燃の小形ですすいません。岸野さんの統計のエリアでよくわかりました申し訳ありません。253ページなんかをちょっとご覧いただければと思うんですけども。
1:03:18	図で見た方が、もしかしたらさっきも見たかもしれないですけど253ページです。

1:03:23	ここでちょうどここで二つ、上と下にEW16 というW17 って断面が並んでいて下の方が次 14 を素材に切ったものというところになっております。
1:03:33	今地質としてこういうふうな状況になっていまして、大体この次 14 の建屋のシルエットの右端ぐらいを切るような形でボーリングでPS検層ってあるんですね。となると今岸野さんも先ほどおっしゃっていたように、
1:03:46	何て言うかね、この図の左っ側にあるような下盤側の緑色の層なんか非常に少なくしか取れてないようなところただ一方で、当然建屋の下にはこういう緑の層みたいなのところ、ピンクとかに比べてやわらかい層が潜っているような状況ですのでそういったところの速度構造の情報なしにハタ 74 の、
1:04:04	入力地震動なつためのモデル作るのが本当に良いかってというような話だと、いうふうなところははいそこ自体は認識しました。ですのでやっぱりこういうような状況を踏まえた時に直下に断層があつて速度境界が規定されちゃうような、
1:04:17	段差を埋めてしまうようなところがある場合にはそれらのそれぞれの場所に対して、確認が必要だと。つまりさっき私が直下のTAF
1:04:28	やる速度構造を満たしているPS検層がかどうかっていうところの判断を今回追加しますけどもその観点で行った時に 1 需要はこれだけだとちょっと足らなくて、
1:04:38	例えばその事業のミギタヘリぐらいのところの、左FeliCa左ヘリぐらいのところの直下の地下構造みたいなのところをちゃんと見てあげて、それに基づく検討というところをやってあげる必要があるというふうに認識しました。そのあとどうちょっと処理するか例えば、
1:04:53	こういう周期確認して両方やっぱ変わらないよねとかそういうようなところのアノオカでやってるのと同じようなところになると思うんですけども、他のグループでは、建屋間でそれをやってる中、建屋の中でもそれをやんなきゃいけないやつてのがこの次 14 台のところにはあるというようなちょっとそういうような、
1:05:09	ロジックにしてあげる必要があるんだろうなと思いました。ただ、一方で、今のうちに申し上げておきますけどもこの 253 ページの上の方の図、W19 の断面のところまでこれでイシイたペア。
1:05:21	言ってるところあるんですけどもこの下にも予定水温断層というような断層があるところがございます。一方で、ここの薄紫、
1:05:35	宇井青井っていうところが多少は切れているところではあるんですが、やっぱり速度境界として出てくるようなものではありませんので、この断

	層によって、何かその速度構造が、その停止タケノ場所ベッショで違うようなことってのはないですよとかそういうような説明は、
1:05:51	できると思う。もしそれができないようなものがあれば、また 24 みたいなやつなんですけども、速度境界に影響ありうるものとして、普段は建屋間でやってることを建屋内の方でもやるっていうのはちょっとシナリオしていく必要があるんだなというふうに聞いてます。はい。以上です。
1:06:06	規制庁の岸野です。はい。ご検討いただきたいというのはもう 7 月からずっと言ってることなのでもう今更って感じもしますけれども、
1:06:15	今おっしゃられた方法、何となくこういう形で説明したいっていうご説明あったんですけども、
1:06:22	今回のその地盤モデルの検討っていうのは、一般的標準的な方法で、
1:06:27	その考え方に立ち返って設定するという、
1:06:30	もので今見直しをしているわけです。
1:06:32	そういった時にこの G14 断面のようなものを見て、24 に、入力地震動を算定するためのモデル化を考えたときに、
1:06:43	普通だったらどういう方法をとるのでしょうか。
1:06:46	今言われたように、どっちかだけの PS 検層ここしかデータがないからこれでいいやエリアでやっちゃうのか、それとも、今言ったようにですね、
1:06:56	両方保有周期を算定して、それでどう評価するのかちょっとわかりませんけども、
1:07:04	どちらかでいいんだという判断をするというのが一般的標準的な方法なのか。
1:07:10	うん。教えていただきたいんですけども。
1:07:12	せっかく大林宇井ワダさんも来られてるんで、和田さんのご意見なんかをちょっと教えていただいてもよろしいでしょうか。
1:07:27	青野ですけどすみません。
1:07:29	そうですね。
1:07:30	もし、
1:07:32	いけますか。はい、聞こえてます。
1:07:35	すみません。こっちのですね、回線の間ですね。
1:07:42	はい。手島。はい。
1:07:44	土谷です。
1:07:45	今、金井で何とか途中から伺った感じになるんですけど、すみませんちょっと、

1:07:52	南部コサクツカベ切れてしまって申し訳ありません。はい、わかりました規制庁岸野です。
1:07:58	ちょっとなかなか通信環境が難しいようですので、もう一度元に確認ですけども、
1:08:06	これまで説明されてきた内容や、今岡さんが説明された内容っていうのは、
1:08:11	こういう、
1:08:12	地層構成の建物、
1:08:15	入力地震動を算定する場合のモデル化として、一般的標準的な
1:08:21	方法なんでしょうか。エミの方から答えられますか。
1:08:44	室長キシノです。日本原燃聞こえてますか。はい。日本原燃可笑しいすいません聞こえております申し訳ありません。
1:08:51	すいません一般的標準的なという観点でいきますと、今岸野さんおっしゃった通り、建物の投影面っていうんですかね、みたいなところで支出が、
1:09:08	ごめんなさいちょっと音声途切れたかもしれません申し訳ありません。この辺の考え方はすいません一般的なというところは当然設計さんとかともちょっと今後ちょっとちゃんと改めて認識合わせというか、認識話は、
1:09:20	やっていただくことにはしますけれども、我々としてのまず1として、意見としてっていうところですが一般的なやり方という意味では、こういうふうな地質構造が大きく変わってしまうようなところに、こう乗っかっちゃってるような建物。
1:09:34	いわゆる建物等のところの下でもいろいろな地質構造が出てきちゃうようなところというふうなところがあるならば、普通であれば複数本のボーリングとかを見た上でちゃんと個別に検討してあげるといのは、
1:09:46	一般的なのかなというふうには思っているところでございます。今回のところにつきましては鉄砲上する地質の種類は一緒に、それらの速度構造の、つまりインピーダンスの積み重ねなんかみたいなところはほとんど一緒であろうというところを考えると、
1:10:02	どちらかの統一で問題なからうというところの話で良化してしまいましたが、実際にというところもし設計を考えるというところになれば複数の情報に基づいてやるべきものだなというのはい。分式をしております。以上です。
1:10:17	規制庁の金です。そうしますと、そういうのが一般的であるということも念頭に置きながらもう一度こちら辺の説明の、

1:10:25	ロジック。
1:10:27	組み直すということになるんですか。
1:10:32	はい。当然設計さんとかとちょっともう1回改めてさっきの話で相談をしながらですけども。はい。それに従った形で一般的な形でちょっと組み直したいとは思いますが。
1:10:43	萩野でございますおっしゃっていただいている通りですね、ちょっと我々の検討が不十分なところがあったという認識に立って、今おっしゃっていただいたように、一般的標準的にこれ金ですね、データ眺めたとき、どうなったと。
1:11:01	いうことに、ちょっと機械でちゃんと検討するというので我々進めておりますからその観点で、少し見直しをかけたいと思います。申し訳ありませんよろしく願いいたします。以上です。
1:11:13	規制庁、岸野です。はい。お願いします。
1:11:18	まあ、どの程度の見直しかっていうのはもちろん原燃の検討次第であり、
1:11:24	何か追加調査結果を待たずとも定性的に、こういったことになるんだということが論理的に説明できるのであればそういう説明も、
1:11:33	あり得るとは思いますけれども、
1:11:36	そこはですね一般的標準的テーマのスタンスに立ち返ってということで、他の専門家の方も大勢いらっしゃるかと思いますので、それぞれの意見を聞いて、
1:11:48	ロジック
1:11:49	の施設名の再検討というものをお願いしたいと思います。
1:11:55	はい。基本的にかしこまりました本日ただすいません、従前からだったんですけども、いただいている意見を踏まえて、改めてちょっとこのロジックは組みたいと思っております。はい。
1:12:09	規制庁の岸野です。どうしようかな。
1:12:14	他にもいろいろと、
1:12:15	あってですね、不便がたくさんあるところではあるんですが一応ここに関しては、もう一度見直すということなので、
1:12:25	あまり細かいところは、
1:12:28	やめておきますけれども、
1:12:30	先ほどの中で、
1:12:33	0人も出てましたF施設周辺グループなんか、94ページ。
1:12:38	説明が、

1:12:40	出ています。
1:12:41	これもですね。
1:12:53	これも
1:12:55	4 ポツ 2 ポツ 1 の 2 パラグラフ目の真ん中ぐらいです。
1:12:59	FDEL断層SF3 断層跨いで岩種分布が同様であり、断層が地質構造へ与える影響はないため、
1:13:10	速度構造に与える影響はないと判断した。
1:13:13	これは、さっきのように 1P直下のPS2 断層が出てくる場合とは別の話としてこういう別のロジックが展開されているんですけども、
1:13:25	これもですね、断層またイデ岩種分布、
1:13:28	どういう。
1:13:29	という断層を跨いでると落差が、
1:13:32	毎週ループは結構高低差が出てるはずなんですけども、同様でありと。
1:13:37	判断して、同様なので断層が地質構造へ与える影響はなく、速度構造に与える影響はないという
1:13:45	繋がりもまるでわからないような状況になっていますのでここもですね。
1:13:52	先ほどとはちょっと違うロジックなので、ひょっとしたらこれは駅になるかもしれないんですけども、
1:13:58	その際に、何で断層を跨いでいるのに、岩種分布は同様なのか。
1:14:06	それで、それが何で速度構造に与える影響がないに繋がるのかというところをちゃんと説明いただきたいんですけど、ここは今説明できますか。
1:14:17	はい。日本原燃のオガセでございます。先ほどちょっとご紹介したのと、まさに似たようなものでしてちょっとページでいくと 239 ページ。
1:14:28	何か違うかどうか。
1:14:30	でもこれが 239 ページをちょっとご覧ください。
1:14:40	谷アノFB断層のものがこの図の 3-2 図の一番最後 35 分の 6 と書いているところのN-S6、下の下半分の方の、
1:14:50	図になりますけれどもここで何を言っているかといいますと赤線で書いているF2AとSF3 断層というものは確かに通っているところではあるんですが、FBの直下投影面みたいところで考えてみますと、
1:15:03	その断層があってもそこについては同じなんだっけ、滞留タカノ火砕流さんの中での、はい。ソウノアノ入れ違いというところになっておりまして、これ以上の細粒砂岩自体につきましてはそのものとしては変わらないところの中で変わっているものでございますので、これ自体は何かし

	ら速度層に影響があるようなものではないというふうなそういうことを言っているところでございます。以上です。
1:15:24	成長期ですはい、わかりました。そうすると、この説明は、FBという施設に特化した説明であると理解したところですね。
1:15:33	はい懸念は、FBだけではない、同じロジックが展開できるようなところはあると思う思ってますけれども、この説明はFBとかと特化してますから、それぞれの建物の直下の断層の分布状況を見て判断するものになります。以上です。
1:15:48	規制庁の岸野です。FDだけではないとおっしゃったんですけど、それはどう。
1:15:53	どこまで展開できるんですか。
1:15:59	規制庁の岸です。確かに古井の直下だけ見たら断層を挟みつつもずっとPFSですか。
1:16:05	というものが解放基盤表面付近まできて、
1:16:10	ちょっとディーエムエスってのが出てくるぐらいなので、もし断層のアカセがなければ、FBの直下っていうのは、そんなに変化がなさそうな、
1:16:19	状況だなんていうのはわかりますけれども、
1:16:21	こういった考え、こういった施設、類似の施設であればこの考えの説明はわかったんですけど、ほかにも、
1:16:29	展開をしているんですがそれでもこういった、あくまでその施設に着目した時にほぼ一様とみなせる値というものにだけ、この考え方を適用していると。
1:16:39	という理解でいい。
1:16:41	日本原燃、岩瀬です。はい。
1:16:45	通りです。今さっきFBの話をしました、1個目を上にずらしてもらって、35分の5の図番図面、図で239ページの是枝と、
1:16:56	真ん中よりちよい右側にFIbがありますけれどもこれも同じような、
1:17:01	位置付けになるかと思えます。
1:17:04	はい。
1:17:05	はい。
1:17:07	はい。はい。江藤。
1:17:19	規制庁の木野です。
1:17:20	はい。大体わかりました。

1:17:26	はい。日本原燃大瀬です。そういう意味ではちょっと文章がまとめ過ぎてて果たして1個の何か考え方で全部まとめていけるようにも読めちゃうので94ページのちょっと文章はちゃんとちょっと、
1:17:39	主語で建屋をずっと並べて書いているんですがちょっと建屋ごとに、背弧の図の、ここの断層を見たんだけどこの層が一緒だからみたいなところはちゃんとわかるように御説書くようにはいちょっと丁寧に書くのは必要だと認識しました。まず、以上です。
1:17:55	規制庁のチームです。はい、わかりました。小もそうなんですけれども、
1:18:00	このパラグラフの下から、
1:18:04	4行目ですかね、SF3断層において、来週の切り替わりが見られるとかですね。
1:18:10	PS検層結果より速度境界確認されて、
1:18:14	どこ、何を見ればこれがわかる。
1:18:17	いう説明も、
1:18:18	ないんですけど、これは、
1:18:22	うん、言うまでもないっていう感じですか。
1:18:27	はい。通番を敷いて、
1:18:31	ないのがよくないですね、言っているのは後ろの108が99ページ下のところのもので、しゃべってますけれども、すみません、全然読めないですねはいちゃんと図との紐付けをちゃんとやります。以上です。
1:18:47	99ページのPS検層結果から判断できるということなんですか。
1:18:52	はい。日本原燃オガセですおっしゃる通りでございます。この天狗泥岩と細粒砂岩の添層境界のところには速度構造というものはありませんので、ここが過小上下したところでも影響ないですというようなところを言っているものです。
1:19:05	院長の金です。
1:19:16	SAF3断層における岩種の切りかわりってのはそれだ、どこぞ。
1:19:21	何を見ればいい。
1:19:35	規制庁の中の保険に合わせ、すみませんちょっとお待ちください。
1:19:50	うん。
1:19:55	はい。すみませんごめんなさい。どこを見ればわかるのというのは、第3、参考1の第3-2図、35分の19と文書に書いているところ。
1:20:04	ページになりますけれども、教えていただけますか。
1:20:07	はい。はい。少々お待ちください。

1:20:12	はい。246 ページになります。
1:20:21	ここはMCTのところでございまして、
1:20:27	はい。ここの地質構造地下構造を、今の 246 ページの上半分の図を見ていただきますと、MCTって、何かSF3 断層の影響によってこの濃い青の泥岩がちょっと真ん中の辺り 0メートルより長イシタぐらいのところですかね、のところに分布する帯状に分布するような、
1:20:44	傾向が見られるというところになってございますけれども、その近傍孔のPS検とこうなんかを見てみると、先ほどご紹介したような、97890 ぐらいにあるところですかねこの辺り一帯のPS検層こう見てみると、
1:20:57	ここっていうのは、泥岩と細粒砂岩の間に速度境界がない、速度構想として同種の岩盤ということになりますので、この総会あのこの青い層がちょっと上がってきているというところは影響なかろうというようなところでは、
1:21:10	書いているところでございます。
1:21:14	規制庁の岸野です。
1:21:15	岩種の切りかわりっていうのは何を指すのかって言うのは、
1:21:21	すみません、もう一度教えていただけますか。
1:21:23	はい、原燃のオガセ干渉切り替わりって何と言いますと 246 ページの、赤線を境にしたところですので、ここでいきますと、SF
1:21:34	3 断層のところのところである、何だっけ、AとDで眼科てがんの、
1:21:41	片野層ですかね、というようなところになるかと思えます。
1:21:45	はい。後ですね、何となくわかってきました。
1:21:49	えっとですね、
1:21:51	もう、これも他のヒアリングでも何度も言ってることなので、
1:21:55	繰り返しになりますけど、
1:21:58	この図の何を見てどう判断したかっていうような根拠判断の過程は全然
1:22:03	説明がなくてですね。ただ、影響ないで断定するような説明っていうのは、主観的な説明でしかないように
1:22:12	印象を受けてしまってですね。
1:22:15	全然その妥当性が判断できないなっていうのが正直な
1:22:22	この辺りっていうのは、作成された方はおそらく説明できるんでしょうけど、原燃は説明できるんですか。
1:22:37	原因の方でございまして。今ちょっとご指摘のあったようにですね、ちょっとどのデータをもとに、この記載があるのかのと紐づけが少し、

1:22:48	全くちょっと取れてないというのはご指摘の通りで、ちょっとこれは、すいません申し訳なかったんですけどもちょっとここをきっちりですね書き下す形で皆をさしていただいて、
1:22:58	見さしていただいてちょっとまた提出させていただきたいと思います。以上でございます。
1:23:21	ありますね。
1:23:23	お願いします。
1:23:33	はい、神ノモトです。承知いたしました。
1:23:36	規制庁の岸野です。はい。ちょっと表現ぶりとか言い出すと思う。
1:23:41	キムラなってしまいますので、このあたりにしますけれども、先ほどまでにですね、直下のPS検層に断層が認められていたら、影響はないとかいうことについてはもう一度説明を見直すということでしたので、
1:23:56	おそらく関連すると思いますけれども、
1:23:59	今見ていただいた 94 ページ。
1:24:03	2 パラグラフ目では、このSF3 断層の影響を述べていますけれども、
1:24:10	これもFCM、
1:24:14	とか、FCT、
1:24:16	という建物等、PS検層があるFa建屋っていうのは、f-2a断層ですね、ここで述べてるSs-F-3 ではなくて、f-2a断層を挟んで、
1:24:27	地層構成が変わるということで、先ほどのG14 の時にご確認いただいたのと同じような状況ではないかなと。
1:24:36	思います。
1:24:38	もう先に言ってしまいますが 125 ページ 126 ページ。
1:24:46	僕は、BA建屋について、
1:24:50	これもですね、PS検層がある、CA建屋とは、f-1a断層を挟んで不連続な地下構造になっていると。
1:25:01	これも、
1:25:03	先ほどのG14 とかですね、同じような、
1:25:07	状況じゃないのかなと。
1:25:09	同じような説明が必要ではないのかなということは、これまでも繰り返し、
1:25:15	質問しておりますので、同様に説明をしていただきたいと思いますけれども、
1:25:24	どの箇所も何について言っているかというのが伝わりましたでしょう。

1:25:36	衛藤。日本原燃のオガセでございます。今おっしゃっていただいたようなところ、MCTとあと、Dpaですかね、のところに付きましては、
1:25:44	おっしゃる通りで、地質構造として断層が直下で切られているようなところがあるのははい、おっしゃる通りですので、FO-Bと同じようにそういったところの経営不安Bナカマー井 14 と同じように、そういった検討というところが必要になるとは認識してございます。
1:25:59	その中で出てくる層境界というか段差のところが速度境界に影響するのかどうかもしくは先ほど申し上げました通りFCTなんかにつきましては同じ
1:26:09	テーブルに乗せての検討にはなりますが、速度境界を有しないような、はい
1:26:14	等が増税しかないようなところかどうかというところの確認をした上で、次 14 と同じようなレベルの中で、その下で断層で支出が切り替わっているようなところをそういった観点での考察は、それぞれ加えさせていただきます。当然それらが対象になるというふうに絞り込まれるようなロジックというかそういうところですね。
1:26:33	もう冒頭のところからちょっとご説明するように入れさせていただきます。以上です。
1:26:38	はい。規制庁の岸野です。
1:26:41	お願いします。
1:26:43	時間がないんですけど、
1:26:48	ん。
1:26:52	清町の岸です。
1:26:54	今、ダテ 5-0 はちいの方。
1:26:58	見ながら確認をしているんですけども、
1:27:01	もう一つ 10 月 2 日に出てきている資料として指摘事項に対する反映箇所リストがあったかと思えます。
1:27:10	そちらの方を見ますと、
1:27:12	2 ポツ 1 が岩盤部分の物性値等というもので、
1:27:17	2 ポツ 1-2 というところに、
1:27:22	反映方針としてですね。
1:27:25	断層の扱いについて事業変更許可申請における説明内容を踏まえた上で、断層の種類に応じた地質構造の扱いの違い等の説明を 2 ポツに追加するってあるんですけども、
1:27:39	これは、

1:27:41	の説明、これに該当するんですか。
1:27:48	反映方針に書いてある内容の説明があっても08で見つからないなという質問なんですけど。
1:27:55	2ポツ1-2の反映方針最初の12行目の、
1:27:59	内容がタケモトカッチのどこに反映されているのかっていうのを教えてもらえますので、
1:28:05	今年のオオハシでございます。つきましては、3ページのところで、ちょっとお待ちください。
1:28:14	635の、
1:28:20	その3ポツのところの該当するところでございますけれどもそれぞれの断層ってところの扱いというババというところをまず、いるところになります。先ほどまで皆さんに見ていただいていた、
1:28:33	その地質の断面図を、小原と三角三田店でましたけれども、これでございます。それぞれの断層SIFDSF
1:28:45	FO-Aとかのについて、落合断層、それぞれについてのここの扱いとかの扱いとかどういうふうに角田とかそういうふうなところが取りまとめられているかという話であとはFO-A普通、一番上の土地のところにつきましては、この落差が非常に大きいものですので、今回我々のグループ
1:29:04	呉の考え方にあたっては、それらをまたがないように設定していますよというふうな話でしておりますので、あくまで今回跨ぐ可能性のあるものとしては下二つの断層系に着目してやりますというふうなところでは、まとめているところコガアノ今のご指摘事項への対応方針が、
1:29:21	として書いているところのはい、趣旨になります。以上です。
1:29:24	規制庁の木曾です。すいません。今のご説明、
1:29:28	漏らしちゃったかもしれないけど、
1:29:30	F-1断層で普通断層だけ考慮しますよ、後は考慮しませんよという説明がここでされていると。
1:29:39	えっとですか。原燃の大町です。ごめんなさい。考慮しないというのは何でによるとは思うんですけども、今回グルーピングの善し悪しという観点では、ちゃんと考慮します炭素じゃどれも、不安、
1:29:55	不安B、普通返すFKどれも考慮はします。
1:29:59	というところであくまでその何ていうか、FRFアンドウFⅡという1度の大きいものについては、そもそももう地質構造がもう完全に異なるような断層になりますので、もうそれは最初から分けますと、

1:30:11	ただ他の断層については、
1:30:13	何ていうんすかねグループを跨ぐこともあり得るのでちゃんと検討しますというようなそういう位置付けでございます。以上です。
1:30:20	規制庁の岸です。はい。そう。
1:30:24	ちゃんと考慮しますという位置付けでこの資料用意されたというような、前段の説明がちょっとあんまり考慮されてないと、ちょっと整合を感じないんですけど。
1:30:33	そういう位置付けとしてここがご説明されているということで理解しました。
1:30:41	規制庁の金です。あと、同じくですねこの反映事項リストで、
1:30:47	2 ポツ 1-1。
1:30:51	なんですけれども、
1:30:52	太い矢印で、
1:30:55	伝達関数の影響を、保有周期の違いに着目して確認することが可能であることを、
1:31:03	伝達関数の理論式等における考え方を踏まえて説明を加えるとあるんですけど、
1:31:09	この説明は、建物 08 のどこにあるんでしょうか。
1:31:17	日本原燃の岩瀬でございますこれ。ごめんなさいちょっと書きかえる必要があったのが書き換えられていないのか申しわけありませんでした。ここにつきましてはすみません冒頭野元の方からお話があった通り、
1:31:30	後ろの方で応答スペクトルで比較しても、やっぱり差がありませんよねっていうところを追加することで採用することにしましたのでちょっとその旨に記載のほうを改めるべきものでございました。
1:31:42	申し訳ございません。
1:31:43	所長の岸野です。はい。となると、
1:31:46	この 2 ポツ 1-1 の反映方針はもうなくなるということなのかなと思ったんですが、
1:31:53	一方先ほどのやりとりの中で、保有周期を算定して云々みたいな、
1:31:58	で、
1:31:59	保有周期での説明っていうのは今回の資料の中にも出てきているんですね。
1:32:05	例えば、
1:32:09	ページでいきますと、
1:32:14	81 ページ。

1:32:23	②番の説明なんかには、
1:32:27	②番というのは、前の80ページの一冊下に②というパラグラフがあってそこからの続きのことを指しているんですけども、
1:32:36	21ページ目、81ページの一冊上の一冊目、
1:32:39	当該建物構築物へのPS検層結果の適用性を確認するとかですね、その下のポチの中でも、
1:32:49	真ん中ほどですか、最も近いPS検層結果の適用性について定量的に検討を行うと謳った上で、固有周期を計算して、
1:33:01	評価しているんですけども、
1:33:06	でも、そもそもこの81ページのこの文章の下から5行ぐらいですよ。
1:33:14	保有周期を求める際は最も近いPS検層結果と岩種分布が同様であることを確認した上で、
1:33:21	その結果のSR構造も適用するって、もう適用しちゃってるんですよ。
1:33:28	なので、ここでもう適用する旨の説明があるのに、上の方で、適用性を定量的に評価するために固有周期を求めますというのが、
1:33:40	目的とやっていることが一致していないように思うんですけども、
1:33:46	これはちょっと目的な。
1:33:49	やってることの目的って、PS件数の適用性の適用性の確認でいいんでしょう。
1:33:57	もしそうだとすると、
1:33:58	何、すでに下の方でも適用しちゃってるもの、改めて何で、
1:34:03	適用性を検討してることになっているのか、教えていただけますか。
1:34:07	日本原燃の小畑でございます。この3ポツ2章というところでございます。直下にPS検層がないところで、果たしてその近くにある近くの建屋のどっかにあるPS検層、同じように見ているんですかというところでございますので、
1:34:23	例えば、9ページに行きますと、ASPピアグループが一番説明でわかりやすいんですけども、
1:34:34	デーピーグループのところ、理事長たニシカワ平成層厚がない、て言わないということになった分、その地質構造という観点ちょっと物見エピックも同じような、という。
1:34:49	あったらもう1、
1:34:52	貴重だというふうを考えて、FTPPS1DCというのは、いわゆる保有周期とかあとは先ほど申し上げた応答スペクトルで影響ないかを確認して、

1:35:10	したことをすることで、DCのPS検層データを一方的にできるというふうなところそこまでそういうふうな最終目的とした。
1:35:22	検討ということで、
1:35:25	集中の機種です。ちょっと音波がよなくて、半分ぐらいしか聞き取れなかったんですけども、
1:35:34	まず、PS検層の適用性って言うのは、
1:35:38	離れたところのPS計装の、
1:35:42	速度構造。
1:35:43	深度何メートルまでは何メートル/secそこからしたら何メートル/secといった、
1:35:49	速度構造をそのまま直下の施設に当てはめられるかどうかの確認という意味でしょうか。
1:35:57	日本原燃の大橋でございます。やっていることとしましては後ろの方の下、個別の先のところで書いている通り、先ほど私申し上げましたDCとDにはちょっとした地層境界のレベルの差はありますと。
1:36:12	いうところがありますので、DC建屋の直下で出ているPS検層、ここに見られる岩種境界と速度講座の対応する部分、例えばこの古藤オカベ氏とこの岩種の間で速度境界があるねというのがDCで見られたと。
1:36:27	Dに行ったらその層というのが例えば多少ちょっと浅いところにいるからといったら、その補正をかけてあげると、そのこそかけてあげても、もとのTCの生の技術検層データと振動特性が変わるか変わらないかというところの確認を、
1:36:41	こういう周期しか両方スペクトルで確認するというをやっています。ですので、考慮するデータとしてはもともとはDCの直下データではあるんですけども、ちゃんと定員の直下を、表現するように味つけした上で、それでも一緒と見えますかっていうふうなところの検討をやっているというのがやっていることになります。以上です。
1:37:00	規制庁の岸野です。つまりやっていることっていうのは、PS検層の適用性というよりは、
1:37:05	PS検層のVsを適用したときに、速度境界の差が、
1:37:12	固有周期に与える影響の確認という
1:37:16	はい、原燃の小穴ですそうですねおっしゃる通りで、こういう周期によって、もはや高スペクトルもやるので限定しないんですけども、その振動特性に与える影響だと思いたすが、はい。おっしゃる通り、

1:37:30	原因の方でございます。ちょっとお話し訳ないんですけども、ここですねうん。になっている、81 ページの下から 2 行目適用するっていうのが、これがちょっと言葉の使い方が悪くて、ちょっと差という事ですね。
1:37:47	PF計算結果で 3 速度構造を、この直下のこの物性として適用するのよう、何か誤解してしまうような、ちょっと表現になって、適用すると言ってしまおうとなってしまう、ここで適用するって言うのは、
1:38:01	こういう表現を求める際の計算条件としてこれ適用しますということ言ってるだけなので、なのでちょっと的オクじゃなくてももう少しですねちょっとわかりやすい文言ちょっと変えないと誤解を招くなというふうに思います。
1:38:15	後、すいません社内で申し訳ありません。固有周期を求めるための前提としての適用というのがちょっと飛んでこなかったんで、これ、こういう周期を求める際には、
1:38:27	この大江た速度構造に、この条件を計算のために使いますって言ってますよね。
1:38:36	これはあくまで手段であって、価格としては、それをやることによって、
1:38:42	何て言うかね、それぞれの今で言えば、デイ・シイ、同じ支社構想を有しているとみなさ、はい。
1:38:55	あれなんだけれども、ここの適用するの主部へ適用するは何を言ってるかっていうと、あれですよえと建物の分析として、直下に適用するって言うわけじゃないですよえ。
1:39:14	はい日本原燃は水素そういう意味ですね適用という言葉がある、ここに行うのがあまりよくないという意味では、おっしゃる通りですね。
1:39:22	すいませんちょっと全然ないで失礼いたしました。以上です。
1:39:28	規制庁の岸野です。今言われた 81 ページのした 3、4 行のところですね。もうこの時点で、PS検層のVsとかを、
1:39:39	特にPSケースはないところに適用しちゃってるんですよ。そのVSの値を使って、直下の地層構造に当てはめて固有周期を算定してるんで、
1:39:49	なので、PSケースの適用性を確認するために、
1:39:54	こういった検討をやってるんだと言いながら、
1:39:59	途中段階でもうすでに適用しちゃってるのに、
1:40:02	この説明っておかしいんじゃないですかっていう質問なんですけども、そこは、

1:40:07	認識ははないですかね。
1:40:12	ジンノです。ちょっとすみません私が言うてちょっとこんな話で申し訳ないんです。
1:40:18	蒲生。すいません今岸野さんがおっしゃってるように、すでに劣ってるデータを使ってるっていうことは、それワーおっしゃる通り、
1:40:31	になりますんで、やりたいことは、近傍でとられている、近傍といいますかそのPS検層ですね、これで等が分析ますと言っている。
1:40:46	PS検層結果が適用できるかどうかと、いうことを決めようとした時に、速度、
1:40:56	構造自体には、そのデータから獲られたピース経度でられたものを、が整理あろうということで、
1:41:07	てにして、だけども直下にやってきたときには、その速度境界だから同じ岩級であれば同じ速度であると。
1:41:17	いうこと前提にして、この許可での
1:41:24	その速度境界がですね若干変わるようなところの影響を見てやって、PS検層でのその分析を使っていいのかということをやろうとしてると。
1:41:37	いうことだと思ってまして、逆にソールをどこかをピン止めしないとちょっとこの影響のパラメータサジってのはちょっとできないのかなという。
1:41:50	認識を持っておりました。すいませんちょっとこうなったら申し訳ございません。
1:41:58	成長の技術なのでその検討をやる前提条件として、PS検層のVsを計算で使ってる時点でもう適用しちゃってるんで、そのした結果こういう周期が合うからPS検層を適用できますっていう結論っておかしいんじゃないですかっていうことなんです。
1:42:13	わかりますか。
1:42:16	元ノモトでございます。そのPF検層で出してきたものが、正しい正しくないやということを検討したいのであれば、
1:42:27	おっしゃる通りで、
1:42:29	今このを検討したいのは、その速度の切りかわりが、逆に開くことによる影響がどうであるかということ、1点のみを
1:42:41	やろうとしてるのであれば、今みたいなやり方になるのかなとは思ったので、これで何を見ようとしてるのかをちゃんと明確にするのが大事なのかなというふうには、

1:42:52	思ったんですけども、すみません、規制庁岸です。私もそういうことじゃないかなと思ってまして、PS検層結果の適用性の定量的な評価ではなくって、そこでの切り替わる地層への、
1:43:04	キソイの影響っていうんですかそれを固有周期で見直してるということ。
1:43:08	なのかなと思いましたので、どうも、今の目的の説明がやっていること合致してないんじゃないかなっていう、疑問ですから、もう一度今の説明と照らし合わせてですね、説明を、
1:43:22	適正化、つまり何をやろうとしてるのかっていうのを明確にした説明に、
1:43:27	なるように、もう一度見直していただければいいんじゃないかなというふうに思っていますけど、できますか。
1:43:33	はい。全然ノモでございます。はい。おっしゃる通りだと思います何を求めようとしてこの検討をやってるか、そのためにこのパラメータをこうしてるんだということがちゃんとわかるように、
1:43:45	記載しないといけないということだというふうに認識はしていた、登録確認したことはありますとか、元はぜひ、今のやりとりでよくわかりました。ちゃんとやってることに即して、
1:43:59	ちょっと、はい。自分をちゃんと書くことにします。はい。以上です。
1:44:04	規制庁の決めますはい。お願いします。その上で、
1:44:07	保有周期が仮にPS検層地点と直下地点と同じになったとしても、入力地震動は同じになるわけではないんですね。
1:44:17	おそらく確認できるのは、程度間程度間わからないのか。
1:44:22	周期特性として、同等といったことをいえるかどうかぐらいかと思うんですが、かなと私は理解してるんですけど、これで何がいえるのかっていうのは、原燃はどうとらえてるんですか。
1:44:36	はい。日本原燃土橋でございます。実際、固有周期が変わらなければ、当然各次数のところの増幅率なんかも変わらない後が変わらないはずですので、
1:44:48	いわゆる伝達関数全体に対して与える影響というのは、ちゃんと増幅みたいなところも含めて、やはり入力地震動として同じものが出てくるであろうというところは、正直想像がつかないというふうには思っております。ある程度確信を持った上でただ一方で、
1:45:04	本当に振ってみないとわからないよねというところとか、こういう周期っていうその縦軸が度増幅率っていう所でジツウ実際どうなってるよねっていうのを見せるのっていうのでなかなかこう、

1:45:14	煩雑になってしまいますので、なら応答スペクトルでの確認をきちんとした上で、はい何て言うかね、裏付けとしてというフカホリとして、そこまでお見せすることにしようというのが今回のちょっと改定の趣旨になります。以上。
1:45:28	規制庁の岸野さん。わかりました。固有周期を計算するものはすべて応答スペクトルまでやってるので、もうそこで定量的な評価ができていると。
1:45:38	固有周期の説明ってのはあくまでサブ的な模擬をするとそう理解してよろしいんですか。
1:45:45	はい。日本原燃尾鷲です。はい。おっしゃる通りの位置付けになるかと思えます。
1:45:56	今さっきのやつはわかったね。野元さんとの会話は。はい。
1:46:01	こういう、しても、こういう周期。
1:46:04	が、
1:46:06	ちょっと話題になってる。
1:46:09	本部制のもとと地盤政調会議ですはい。わかりました。ちょっとお待ちください。
1:46:16	での。
1:46:17	妥当性を検証する。
1:46:19	うん。
1:46:21	建物
1:46:22	地盤連成系のこういう、
1:46:24	だから、
1:46:35	こういう正解みたい。
1:46:38	多分、今持ってってたから、
1:46:42	正解に近いのは地震かつたが、
1:46:46	うん、拾うことだよ。はい。多分、ピークスちゃんと立つから。はい。一方で解析モデルからの固有値解析が上がって、多分すぐにかかるよね。
1:47:00	そういうことを今やってるもの。
1:47:03	こういう関係。
1:47:05	多分一番正解なのは、
1:47:07	ないだろう。
1:47:09	観測記録だよ。

1:47:11	あればね。はい。そこに地震計ついてとか。
1:47:15	一方で、建物のモデルは全部あるから、こういう近いところから、単体のやつが出るから、
1:47:25	うん。
1:47:27	で今の会話っていうのは、
1:47:30	どういう関係にあるんだろう。
1:47:33	記録との比較という意味であっても、単純に岩盤物性でPS検層が、例えば、
1:47:40	ないものに対して、
1:47:42	同じグループの増子氏は、PS検層で基本
1:47:45	もう使っていると。
1:47:49	優秀。
1:47:51	建物じゃない、地盤の地盤の固有周期、うん。
1:47:55	自分になっちゃう。
1:48:00	基盤系、これ、そう。そうです。そう。
1:48:04	そう。ちょっとVsダウン側刻みいらっしやいますけどね。
1:48:09	タシロ。
1:48:11	レンズ系ではない。
1:48:22	は、
1:48:26	からもわかるよね。
1:48:28	同じ、同じだからね。うん。
1:48:31	それとの関係があって、速記録
1:48:36	PS検層おかげさまたくさんやるじゃん。
1:48:42	17というヒガシ。
1:48:44	そういうのは、
1:48:48	地震観測記録、
1:48:50	会話が途中で申し訳ないんでその関係っていうのは、
1:48:56	それは何でも出てくるからさ。
1:48:59	より近いところ、ただSARRY、そのデータもたくさんある。
1:49:03	追加されるので、追加されたPS検層でそのグループ内のそのホリウチとかが、適切だった
1:49:14	そのデータを集めてから、それやった方が、今何か中途半端にやるより、
1:49:22	いい気がするんだけど、

1:49:24	どうい。
1:49:29	今回でさ、おっしゃる通り、全体でやってるのは、何しろ、
1:49:34	今持つてるデータだけでは足りないから、BS件数をやったりっていうのも含めてとか、いろんな新しい、
1:49:44	干渉法とか使ったりして、要はデータをたくさん集めようと。
1:49:50	それでラブホテル決めるってやってるんじゃない。
1:49:55	ですね。うん。追加調査の結果からも当然そうです。
1:50:00	その追加調査とか、
1:50:02	分関係は、今まで使えるとどうなるか。
1:50:06	そうですね出てこなかったです。
1:50:08	ですね、追加調査結果を踏まえてやるけど、今持つてるデータからしたらこんな感じ。
1:50:16	よろしく。
1:50:17	ないのかなと思う。いやだからなんかね、何を心配してるかったら、PS検層セミナーで彼らはもう何か現実しか見てないんですね。
1:50:27	でも、違うんじゃないのと、取れるデータがたくさんあるわけだよね。
1:50:31	追加で全部使うんじゃない。
1:50:34	谷津の伝達関数みたいなやつは、現地だけじゃないんだよね。はい。
1:50:40	合成だとか、すべてかあそこだけ込み込みになってて、そんなにおかしくないねっていうことなんじゃないのかなと思ってるんだよ。
1:50:51	何かちょっと。
1:50:53	どうなのかな、そういうところで心配なんで、追加調査の件も含めてどう考えてるか。
1:51:00	規制庁岸野です。おはようございます。すいません。お待たせしました。今ちょっと内部で、これまでのやりとりを踏まえて、少し規制庁ないで話したんですけれども、
1:51:09	保有周期での説明云々のほかに、オートスペクトルも確認するという、確認しつつあるというような説明がありました。あと追加調査として今回PS検層を多数の地点でやると。
1:51:24	当然ながら、VSVP等が獲られてくるので、それをもって、今、
1:51:30	確認している設定している速度構造等が妥当であることの検証っていうのは、やるということで原燃は考えているのかどうかその辺りの考えを教えてくださいませんか。
1:51:43	はい、水元でございます。今のオクに対して端的にイエスでございます。

1:51:48	規制庁の鬼頭ですはい。わかりました。
1:51:51	PS検層の追加調査の結果を踏まえて、今、
1:51:56	説明を進めつつある各グループの速度構造についても、妥当であることの確認というか、検証を行うと。
1:52:02	ということで理解しました。
1:52:04	ありがとうございます。その通りでございます。この上でですねやはりそのデータを眺めたときに、もうそれを今度ね即、今回の物性値の設定に加える必要があるなとなった時にはもう、これの検討を、
1:52:20	するのであろうというふうな心持ちで我々おります。以上でございます。
1:52:25	清町の金です。はい、わかりました。
1:52:27	ちょっといい。
1:52:29	規制庁、瀬川ですけど、ちょっと確認したいんですけども、
1:52:34	今皆さんがやってることっていうのは、何かもうすでにモデルがある程度、こういうものでよろしかろうというのが、
1:52:45	前提にあって、
1:52:47	追加調査のPS検層とか、
1:52:55	他の伝達関数だとかああいうもので、
1:53:01	当初仮定したものが妥当であるかというのを、
1:53:07	検証するという目的で、
1:53:12	やっているのか。
1:53:14	たまった。
1:53:16	今は全部のデータの、例えば 50%ぐらいしかないですと。
1:53:22	でPS検層をやったり伝達冠水あったり地震は干渉法をやって、そうすると、Dだが、50%から 80%90%ぐらいになってきますと。
1:53:37	MACCSだとすると 100 でもいいんだけど、データが増えてきて、それじゃ全部合わせてモデルを構築しますという、
1:53:47	呉のか、前者か後者どっちなんですかね。
1:53:54	案件の方でございます。もっと端的に申し上げますとすべても出てきたもので、分析を設定していくということになると思っています。もう最後決める時になると、
1:54:07	常に今回取るものもですね来たデータになってしまいますので、そうしますともうライセンスデータをもうすべて踏まえた上で設定するというのもう入りそうなんだろうなというふうに思っております、もうそれは考慮した上で設置すると。

1:54:21	こんなふうに我々考えてるところでございます。以上です。規制庁の長谷川ですけど、そういう意味ではだから、前者が後者かったら、後者だよね。
1:54:31	その通りでそうすると、途中段階で検証するとかって言葉遣い自体が、
1:54:39	何、何かね、どうなのと、今あるデータから、
1:54:43	見ると、こんなもんぐらいの話でしかなくて、今後データを拡充した上で、
1:54:52	見直していきますとか検討していきますという。
1:54:56	話になるか、ちょっとだからそういうところのロジックみたいなね、ところが少し微妙に変わるんじゃないかと思って。
1:55:05	こんな話をしてんですけどね。
1:55:15	安全でございます。確かに話し方が変わるというのはおっしゃる通りですので、
1:55:22	頭にいけば私、さっき申し上げたような方針になるんだろうなというふうに思っております。
1:55:31	すいませんどっちなんだということを今お問い合わせになってるということですよ。そう。
1:55:39	オガセさんは全社しゃべってる。
1:55:42	気がするんだよ。ね。
1:55:44	榎本さんは後者だと言いつつも、
1:55:47	本当にそういうふうにしてしゃべってるかがちょっとよくわからないんで、
1:55:53	ダイレクトに聞いてみたんだけど、
1:55:56	うん。
1:56:11	うん。元の方でございます。
1:56:16	そうですねちょっと話し方が我々の中で、あれですね。衛藤。
1:56:22	ご説明の仕方が、
1:56:25	確かにちょっと揺れ、揺れてるといいますか、
1:56:31	検討の出発点ではないか検証の位置付けだろうなと思いつつながら直接はおっしゃる通り、ちょっとそこはきちっと、しゃべり方といいますか、我々の中でのロジックとしゃべり方をちゃんと合わせるように、
1:56:46	長年ちょっと、ちゃんと調整して、ニイツでしゃべるようにしたいと思えます。以上です。はい。規制庁の長谷川ですけど、要は、昔から原燃ってというのは、

1:56:58	何か欲しい結果というのを、な欲しい結果っていうのを、目標設定して、そこに対して妥当性を、何かいろいろこう、
1:57:12	塀減少とかっていう言葉をよく使うんだよね。だからあれからそこが抜けてないんじゃないかなと思って、今回のケースっていうのは、何か目標設定があるわけではなくて、
1:57:25	たくさんのデータを集めて、1 から全部そのデータを並べて、
1:57:33	吟味して、
1:57:37	決定していくというそういうことであつたんじゃないかなと思ったんでね、その辺の言葉遣いというか、根底にはもともと、
1:57:48	何かターゲットとする。
1:57:51	部分がどうしても見え隠れするように思えてしまうんですよ。
1:57:59	はい。現在、ノモトございます。はいご指摘、非常によくわかりました。確かに我々そういうところの、
1:58:09	何て言いますか、マインドの言葉遣いが少しやはりちょっと残ってしまっているというところも発生せねばならんということも、
1:58:20	理解いたしました。ちょっとそこは先ほど私は毛利と申しましたけれども、きちんと一つのストーリー説明といえますか、アノをお示しできるように、やっぱり押すべきだというふうに思いますので、改めてました。以上でございます。
1:58:38	はい。はい。
1:58:42	規制庁の岸野です。
1:58:46	うん。南武線についての確認は私からは以上になりますけれども、カーの方からありますでしょうか。
1:58:56	特にないようですので、
1:58:59	岩盤物性についての確認は以上とさせていただきます。
1:59:12	ああ。
1:59:18	消して、はい。
1:59:20	はい、規制庁にしますそれではヒアリングを開始してからですねちょうど2 時間ぐらいになりますのでここで一旦休憩を挟みたいと思います。
1:59:29	振り返りはまた再開してからになりますけれども、振り返り等の準備の方もあわせて進めておいていただければと思いますので、そういった形で次 40 分再開ということにしたい。よろしいですか。
1:59:46	はい。健全でございます東京側了解です。
1:59:52	はい、六ヶ所はもうよろしいです 40 分再開よろしく願います。はい。成長しますそれでは 15 時 40 分再開ということでお願います。

0:00:03	規制庁キシノです。
0:00:06	ヒアリングを再開いたします。
0:00:09	次は、岩盤の非線形からになるかと思えますけれども、資料に関して日本原燃の方から追加補足説明等がありましたらお願いします。
0:00:23	はい。日本原燃野元でございます。頑張り 1000 件につきましては、追加でご説明ちょっと結構は特にございません。以上でございます。
0:00:35	はい。規制庁、
0:00:38	それでは規制庁側から資料について確認
0:00:41	しましたらお願いします。
0:00:46	ちょっと簡単なというかですね、事実確認だけしたいと思います。
0:00:51	資料の 300、例えば 312 ページ、これは、
0:00:59	次 14 のですね線形非線形での入力道路のスペクトルの比較が書かれてますんで、まず確認したいのは、
0:01:09	基礎下よりも、
0:01:13	浅いところの、
0:01:16	次、自動じゃない時のせん断弾性係数が出てるんですけど、この
0:01:20	越冬を、
0:01:22	値というのは、流動化処理どう。
0:01:26	を、を考慮した場合の、
0:01:29	せん断弾性係数と理解しておけばいいんでしょうか。
0:01:37	はい。日本原燃のオガセです。確かにすいませんちょっと図表、収束物性の表のところを書いてなくて恐縮ですこれ計算上は、ハバサキさんおっしゃった通り、表層に流動化処理等を考慮した、
0:01:49	地盤モデルとして計算をしております、ですのでその収束剛性基礎下の収束剛性もの運営を、投げ種流動化処理とか、流動化処理動を表層に考慮したときの、地下、
0:02:01	地中の地盤のひずみに応じた収束物性を書いているところです。以上です。
0:02:05	はい。規制庁浜崎です。ちょっとこのあたりのし、
0:02:10	質疑ありますか。出典がわからなかったんで、確認しました。ちょっと今のような話がですね 306 ページ、367 ページにも少し触れておいてもらえればと思いますがよろしいですか。
0:02:24	はい。日本原燃の大橋でございます。
0:02:26	そこで、

0:02:28	このときの解析条件として考慮した表層地盤の情報をきちんと書くようにいたします。以上です。はい。規制庁浜崎です。もう1点さっきのさ、360ページの、
0:02:39	一番最下のですね一番下のパラグラフの文章のところなんですけれども、
0:02:46	これに対応する。
0:02:50	図、図表といいますか、結果っていうのは、どこを見ればわかるんですか具体的にはですね、株式海岸の児童が450とか、
0:03:00	1100とかそういう値になってるんですけども、
0:03:04	これって、どの数値をもって、この文章になってるのか、ちょっとそこを説明してもらいたいんですけども。
0:03:16	はい。日本原燃のオガセです。うん。すみませんこれさ、岩盤物性の時もそうだったんですけどずっとちゃんと紐付けて、
0:03:23	書くべきところですよ。言いたかったところにつきましては312ページの図。
0:03:30	と、300、
0:03:33	11から31112のところの生徒のところは自重用のところというところの、軽石凝灰岩でピンクもそうですかね、のところの合成の数字を見ていますので、少なくともちょっと今まで他のところでもやってるようにこの図にちょっと注値とか吹き出しつけるようなこととして、ここの数字見えますというのがわかるようにしたいと思います。
0:03:51	以上です。はい、室長浜崎です知ってる。
0:03:56	記載をし、きちんとしてもらいたいと思いますんで、基本的には308ページからですねACからですね312ページの24まで、東側の、
0:04:07	基礎下の地盤のOGなり所の値が出てると思うんですけども、
0:04:13	ちょっとここの数値を引っ張ってきているというふうには理解しておけばいいんですよ。
0:04:21	はい現年越智308ページ以降にある、G0の数字に基づいてはいます。はい。例えば平均化してるだとか何か何らかの
0:04:33	考えで、文章の方には表記されてると思いますんで、きちんとそこをわかるようにしてもらいたいと思います。
0:04:41	はい、原燃終わって丸めたりとか、メンバーあるんでちょっとそういうところがきちんとある中で、もし正確な数字とかも含めてですね、きちんと文章のサイズが対応するように記載します。以上です。
0:04:56	はい、瀬崎です。

0:04:59	あとですねちょっと技術的に細かい話なんですけども、
0:05:03	313 ページ。
0:05:05	の、
0:05:08	東側の、今これ五つの構造物ですかね、のいわゆる剛性低下の係数、丸井市分の②という形で出て、
0:05:19	基本的にZ以外はですねZ等、Cかな以外は比較的剛性低下率の大きいですね。
0:05:28	1 割を切ってるような数値がこう並んでるんですけども、
0:05:34	スペクトルを見ると、入力のスペクトルを見ると、このG14 だけが、スペクトルに乱れが見られているんですけども、それ以外のところはあまり、
0:05:46	ていうかほとんどそう乱れないんですよ、その辺りって。
0:05:53	今、
0:05:54	306 ページにですね、次需要に関しては、ハヤシ凝灰岩の人が自由度が小さいからという、
0:06:04	ような理由になってるんですけども、ちょっとここをもう少し具体的に説明してもらえませんか。なんで、次 14 だけがかなり違うという。
0:06:12	条件で、その場合に本当に 14 で、岩盤線形で扱えるんですかっていう次の疑問になるんですけども、その辺り原燃の見解を、説明してもらいたいんですけど、いかがでしょう。
0:06:27	はい。日本原燃のオガセでございます。今、考察として何でこんなことに一重論だけなってるんだらうというところを 312 ページの図のところでもうちょっとご説明させていただきますけれども、
0:06:38	他のところと明確に違うところっていうのが文章に書いてさ軽石凝灰岩もやわらかくなっているっていうところの話これが括弧Bの収束構成物のところの-30 から-60 メートルぐらいのところまで1 回速度が落ち込むところがあります。
0:06:56	ここの影響によって、ある意味何かここ高次成分っていうんですかね規定だと大体こうあんまりこうトータルの硬さぐらいでいくんですけども高次成分のところってのが何かこう、
0:07:06	ちょっとこういう不振みみたいな速度層があることによってちょっと荒れたのかなっていうのがちょっと見解でございます。具体的にそれがどういう層がどういう数字になってどう影響したのかまでっていうのは正直ちょっと、

0:07:19	後もうなかなかなかこのしようがないんで、要因があるとすればここだろうなというようなところの今はちょっとぐらいの書きぶりになっているっていうのが、はい。なって折井ますで。
0:07:29	じゃあ、これが応答スペクトル上の差として出てきているのかというところの話ですが、コーセーの低角街としては、先ほどハバサキさんもおっしゃったかなと思うんですけど他の、そんなに剛性低下率が違うわけではない。また収束剛性部分の
0:07:46	1度左ですいませんけど 312 ページの真ん中の宇都魚住でも、黒線と赤線の差、これが剛性低下率になるような、なるわけなんですけども、
0:07:56	それもやっぱり中見てもその隣、Z周辺とか富井クラブもそんな遜色があるわけではないと。
0:08:03	いうところになりますので、非線形による影響というよりは、ちょっとそういうのが、民間に出やすい速度構造なんだねっていうのが本当は正確なところなのかなというふうには思っております。ちょっとすいません
0:08:17	あんまり定量的なところは言えずのところではあるんですが、そういうふうに考察しております。以上です。
0:08:22	はい。規制庁浜崎です今の見解は、理解しました結果的にですね剛性低下率Ⅱとしては似たような数字でも、次 14 ぐらい入力度のスペクトルとほとんど差異がないと。
0:08:35	いうことも含めてなぜじゃ次 14 だけ差があるのっていうのでさっき大町さんが言われたようなことが考えられるということとやる。それを定量的にちょっと示せとかで示して欲しいとかそういう話は、
0:08:49	今のところ考えてないです結果的に、公正化率がほぼ一緒でも入力と変わらないってのは他の構造物で見られるので、
0:08:58	問題ないと私自身は思ってますんでですね、今ですね、小松さん言われたような話をちょっと 306 から 307 のところに、もう少し、
0:09:09	らしく、丁寧に説明がしてもらえれば、
0:09:12	結構かなと思いますが、大丈夫でしょうか。
0:09:15	はい原燃の和智です私今申し上げたようなところ 24. こういう特徴的な速度構造で、支店経過自体が他と遜色がなくとも、そういうのが見やすい形になるというところの分析をちょっと丁寧に記載のほうを充実させたいと思います。以上です。
0:09:31	はい規制庁ハマダ技術お願いします。で、私最後になるんですが、一方ですね 332 ページの、
0:09:38	一番下のパラグラフ

0:09:41	で、Z周辺及びG14では、加速度応答スペクトル若干の差が見られ、
0:09:48	その他パラメータの設定結果を踏まえ、差について考察を行うと。これ以前からある文章なんですけど、
0:09:55	これ、具体的には何か、どういうことをやられるのか。菅。考えを説明してもらったんですけど。
0:10:02	はい。日本原燃の長谷でございます。この非線形ナカアノ資料この別紙2-2の中では、Gドイがイワサがないと私は言い切っているというふうに思っております。
0:10:14	地震は得意先ノジリ終了のところであるというところでございます、概ね同等というふうに言ってもいいところではあるんですがその他というところを、
0:10:24	もしいいかどうかというところで、ここに提起というものはございませんので、最終的なところ、設計用のモデルを作るというフェーズの段階では、それぞれの因子から持ち寄った実態場面みたいなのところとか、お与えしていくわけですので、
0:10:41	あと上で最終的にモデル作る上で、例えばですけども、他のイシイにおける保守性の中で増え、レベルのオノですとか、フナツ期を見た時レベルですとか、そういうふうなところの検討でもって出てきた311312決めた。
0:10:58	C-14れる津田さんというところが問題ないという、この話をちょっとお話をさせていただこうかなというふうに考えているところでございます。以上です。
0:11:09	相木市長浜崎です。今の説明は理解しました
0:11:14	そうすると今、332ページの下の2行目のお話っていうのはどちらかという設計用地盤モデル設定段階においてというように理解しましたので、
0:11:25	支障なければそういった趣旨の文章をここに書いてもらえればと思いますが、よろしいですか。
0:11:33	はい、原燃のオガセアノかしまりました呼称自体はおっしゃる通り基本モデルにおけるというところで設計に使う段階のところの話で予告を書いていますけれども、ちょっと確かに言葉がちょっと足りないかなということでもちろんちょっと具体化のイメージがわくような記載をちょっとしたいと思います。以上です。
0:11:50	はい、規制庁ヤマザキからは以上になります。
0:11:55	規制庁キシノです。

0:11:57	余し点検について他に規制庁から確認ありますでしょうか。
0:12:02	よろしいですか。
0:12:05	規制庁上出です。今基本地盤アノさ、
0:12:13	差分について、
0:12:16	設計用地盤モデルの設定のところ
0:12:20	井清の中に含めますと、今そういうところ説明されたんですよね。
0:12:28	はい。日本原燃オガセは、その通りですね。
0:12:33	規制庁神です。そういうことが、
0:12:36	そもそも設計を地盤モデルってそういうものですよっていうところはどうか説明がありましたか、特に本部とかその辺り。
0:12:49	原燃のオガセでございますし金曜日にいただいた本文のコメント、結構これからどう書こうかなというのはちょっと今悩みながら受け答えをしていたところでした。
0:13:01	の本文のところで基本モデルとあと何だっけ地盤の実態パラメーターというところの線引きの話をちゃんとするべしというふうな話が、ご指摘をいただいております、その時に、
0:13:16	アノ。
0:13:18	修正をどこでのタイミングで見るか、基本モデルのところで見るかとか、
0:13:24	各現地の中で見るかとかってその辺の話とかをきちんと整理しなければいけないと思っておりますので、それで、ここの話ってのはまさしくその保守性のところの話だと思っております、設計上最終的に用いる上でどういう保守性が基本モデルに入りますかっていうところの説明を、
0:13:40	する中で、試験系のところのちょっとした、
0:13:43	応答のパックみたいなところを吸収できるかどうかという話をする事になると思います。そうなりますと、
0:13:49	本文のところの整理を今後ちょっとどういうふうにしていこうかなというところで、ちょっとすみません、まだ腹案の段階ではあるんですけども、やはり保守性の議論っていうところは、各因子個別にやるというのもそうなんですけども、最終的な基本モデルの出来栄みたいなのところの話。
0:14:04	そこのところの話もちょっと触れて書いてあげる必要はあるのかなと思っていて、それなんか本文のところで何か今のうちに方針的に書いておく呉と、こういう今の視点系のところの、
0:14:15	ある意味宿題として残ってる保守性のよう確認事項みたいなのところを拾い上げることができるのかなというふうに思っていますのでちょっとそう

	いう、本文の修正と合わせてやはりそこが見えるように、今カミデさんご懸念されているようなところがちゃんと
0:14:27	基本モデル作るプロセスの中に入るように、ちょっと書くのが大事だなと思っております。ちょっと甘く代官のない方針ですけども、はい。そんなことを考えてます。以上です。
0:14:37	藤規制庁、小峯です。
0:14:40	何かよくわかんないなって感じでしたっけ。
0:14:45	8 ページとかで基本地盤モデルっていうのは、合理性だったり、保守性で1、
0:14:53	ですね合理性、設計的な合理性っていうのもあると思うんですけど、
0:14:59	何に対して保守す、どんな保守性を持たせるのか。
0:15:04	つまりその各検討の中において不確かさがどれくらいあるのかっていうのを、
0:15:11	言っておかないと、
0:15:18	うん。うん。ページ、
0:15:24	8 ページでいうと、(4)だったり、学校のところで、
0:15:28	そういう宿題事項をちゃんと出して、
0:15:32	それをちゃんとバスケットブースないように(6)で設定をするっていうことなんで、さっき船型のところはそういう形で宿題は明確にしたと思うんですけど、それ以外ところですね、2、
0:15:48	どんな、まだ不確かさがあるのか、言い切れない。今でも100%の実態なんて購入できないんですから、そういうところに、痒いところもあるんですかっていうのは、
0:16:01	船型だけじゃなくて、ちゃんと残しておくようにしてもらえますか。
0:16:06	はい、原燃の和智ですかしこまりましたそうなり、そういうふうなことをイメージして先ほど私も説明したと思うんですが、ここでちゃんとうちから上がってくる宿題というか、事故みたいなところを踏まえて最後の(6)で、
0:16:20	そしてへの機能とかをしていくということになるので、それをきちんと書くというのは、了解いただきました。例えばその岩盤内のバランス、そういうのに同じ、
0:16:30	何か整備載つけた方がいいかなと思ったりするのでちょっと整理難しそうだなと思いながら、はい。工夫して書こうと思っております。以上です。

0:16:40	はい。規制庁小峰です。あと非線形でいうと、今、進め方資料とかだと、非線形にかかる作業はないですってということですと説明を受けていたんですけど、
0:16:54	今日のヒアリングを踏まえても、特別何か書くことはないって感じそれとも作業ができました。
0:17:04	県の方でございます。これは、今日のヒアリングを踏まえた、記載員の何ていうか整理が必要だと思いますので、それが本日は宿題事項になると思います。
0:17:18	それを今後の対策モデル秋野浅井提出て対応して参りますというのが、おそらくミッションになるだろうなというふうに思っております。以上でございます。
0:17:29	伊勢五味です。今野間さんがイメージされてる 2000 件のタスクって何がある。
0:17:38	辨野でございます。衛藤筒井希衣内容ですかね。衛藤。
0:17:46	規制庁小浦です。はい。
0:17:49	何だろう、作業して、立木だけじゃないと思うんですけど、どんな作業がありますか。
0:17:57	現在の方でございます。基本、追記なのかなというふうに私今思っております。衛藤。
0:18:07	解析をもとに、何名ミイ増。
0:18:12	をヒガシするっていう断面のものでも、おそらくないのかなとは思いますが、先ほどのやりとりの考え方がちゃんと書けてないところはちゃんとこれ整理するっていうのは大事だなとは思いますが、
0:18:27	すいませんちょっと認識が吉良等をおればちょっとお話いただく必要があるかなというふうに思った次第です。
0:18:33	藤規制庁からですね、認識がよく野間さんの認識がよくわからなくて、さっきハバサキが言ったことは前から言ってる話なんですよこの差分のところの説明何とかしてると。
0:18:44	対応としても別に何か検討を要することではなくて、書きぶりなんですよね。結局、今、今の段階では、それを、
0:18:55	前の時もそんな感じだったしかなかったはずなんですよ。
0:18:59	なのに、ねえ、今まではちょっと文章を直すだけのことをタスクとしてとらえておらず、今日踏まえるとそれが加速として費浮上してくるっていうのが、
0:19:10	どういう認識なのかなって思って聞いてるだけです。

0:19:14	伊能でございます。そういう意味ではですね先ほどの岩盤野瀬のところもそうなんですけれども、藤な衛藤前からの宿題である。
0:19:27	それぞれ何をもとに同伴、何をもとにどう判断して、この結果になっているというところがすべてちゃんと引用してわかるように記載すべきというのはこれ繰り返しいたいておって、
0:19:42	我々承諾していただいていたところなんですけどもその対応がまだちょっとできてない状態であるという認識をまたしております。ですので、そこんところをやはりもう一度ですね我々の中で、
0:19:57	見直してちょっと徹底してやらせていただくというのが、今のミッションなのかなというふうに思いました。ありがとうございます。
0:20:05	10ヶ月ということは、
0:20:08	まとめのタスクに入るから、個別で非線形として何かすることは、引き続きありませんということでもいいですか。
0:20:17	例年のことでございますそういう意味では、イエスですね。以前からの宿題ができてないという点ではそれはそういう認識は私は持っております。以上でございます。
0:20:28	はい。規制庁上出です。
0:20:31	あとはあれかな、追加調査ってやる内容って線形とはもう関係ないんですか。
0:20:39	今回は国会は、
0:20:41	はい、神野でございます非線形は、特にと絡んでこないという認識でございます。以上です。
0:20:52	はい。とりあえずわかりました。
0:20:56	とりあえず、カミデの方から、
0:21:00	状況です。はい。他はよろしいですか。
0:21:05	はい、では、予定していた説明項目は以上かと思しますので、
0:21:12	本日、指摘に対する振り返りをしたいんですけれども、下の方、
0:21:18	準備の状況は、
0:21:20	どんな感じでしょうか。
0:21:25	議員の方でございます。ですね、今いただいたものも文字に起こしますので、すいません 10分いただければというふうに思いますけれども、それで作業、
0:21:38	やりとりしながら、今から私はやりながら、できるかなとふみましたらどうでしょう、チェックはできるのかは、
0:21:52	ほぼ、

0:21:53	規制庁浜崎です。ちょっと振り返りの前にですね。
0:21:58	本文のところに戻って恐縮なんですけれども確認したいんですが、53 ページのところですね、第 2 回のばらつきの設定の話、今回新たに、
0:22:10	ちゃんともらったんですけども、
0:22:13	ちょっと懸念、確認したのは、岩盤部分のばらつきについては、次の 54 ページに示すようなブロック形でこの中の物性値からばらつきを評価するってあるんですけど、
0:22:26	神 14 ってどうするんでしょうか。
0:22:31	はい。正直決めかねているところが悩ましいところで、目的のところ、今ここ 54 ページのところに書いているところとしては、
0:22:44	浜崎さんがちょっとご懸念されている通り、21 のところないんですよってということなんですけど、次 14 のところを含めてないんですけども、
0:22:59	左っ側ヒシカワ笠野ヒガシallの母集団を多くした後はやっぱり地質の材料は一緒ですので、こういうふうにおオクマたようなところで取ってあげたほうがいいんじゃないかなとかそういうところもちょっと思案しているところございまして、そこも含めてちょっと今後の追加調査を含めての、追加調査の結果踏まえて、
0:23:16	改めて次の 19 番で、そのばらつきの母集団という、明示する必要があるというふうに認識した上で、ちょっとこの四角枠を変えているところでございます。はい。状況はいいということですよ。
0:23:27	はい。規制庁浜崎です現段階で、G需要のばらつきどうするんだという話を、ぎりぎり詰める必要はないと思うんですけども、今、何も記載がないということですね。
0:23:38	今大橋さん言われたような事情については、地盤構造統制を見ながら、今後設定するとかですね。
0:23:47	他にも、広く、次 14 までヒガシに、
0:23:54	書き込むことが本当にいいのかというのは、ばらつきという観点ではいいのかもしれませんが、
0:23:59	ちょっとそこが今後決めるというような多分スタッフになると思いますんで、53 ページのところにそこつきするなり、
0:24:09	説明してもらえればというのが私の見解ですが、よろしいですか。
0:24:14	はい、原燃の芦田です。すいません結論まではちょっとすいません今わけないところなので、あくまでヒガシアノそのまま緑で書くようなところと、次のそれぞれでちゃんと僕はちょっと違うことになるかもしれないけど、母集団決めて、

0:24:28	やりますというふうなところは廃棄、宇都宮というところがわかるような記載をいたします。以上です。はい、土屋茂木です。すみません。私から以上になります。
0:24:39	はい。規制庁の中です。
0:24:41	それではよろしければ、今から 10 分ということで、16 時 15 分めで再開ということによろしいですか。
0:24:51	はい、神野でございます結構でございます。
0:24:54	はい。それでは、16 時 15 分、再開ということでお願いします。
0:00:00	規制庁岸野ですイマダのヒアリングの方を再開します。表現の方からヒアリング振り返りの説明の方をお願いします。
0:00:10	はい。元ノモトでございます。本日のヒアリング振り返りでございます。まず前たですけれども今後追加する内容については、表紙で今後範囲が必要であることがわかる記載することと、
0:00:25	それから進めた形でもちゃんと説明することということで、これすみません追加検討といいますか今日、今日お出しできないデータの部分について、ちょっとすみません、江藤ご提起繋がったところの反省のところでございます。
0:00:39	③ 番本部において確認しにおける不確かさを記載した上で日本にモデル設定における保守性合理性の設定例を説明すること。これ先ほどの非線形の検討でのコメントも踏まえて全体として、当庫のですね、
0:00:54	基本地盤モデルを設定するに当たっての、それぞれのどういうふうに判断を受け渡していくのかといったところの説明を他の因子も含めて整理するということをお願いしたものでそういう対応でございます。
0:01:09	④、24 のばらつきの設定について、現時点を設計方針を 53 ページに記載追加することということで、これ現品の我々考え方ということでございます。
0:01:20	それから、岩盤部分の物性値とこれの本文と別紙 2-1 でございますけれども、フクダですね、まず第 1 回と第 2 回の品性は同じ方にに基づき設定することなんですけれども何かグルーピングを行うので、その大田についての浅部がわかるような記載をすると。
0:01:39	いうことでございます。それから第 2 回の入口でグルーピングから入りもやっているといった検討がグルーピングしたところから始まっているんですけれども、その前にある検討を地質構造、速度構造の確認を踏まえた上でグルーピングする。

0:01:53	となるということがねらいとして我々の考えとしてちゃんと記載することを一つにいただいております。
0:01:59	それから、それぞれの別紙につきまして、紹介というか、後の整合を
0:02:04	7番目、特価または近傍の骨盤圧壊明確にして異なる定義で起きる場合には用語を使い分けるということで、特に近傍ですね、この定義と扱いをきちんと明確にしたいというふうに思います。
0:02:20	で、8番目、PS検査の
0:02:24	室長の前の場合においても、断層の影響の考慮要否検討と根拠を示すこと。
0:02:31	ということで、この上段の赤羽側のオフィス構造とPS検層の知識の差分を含めた考察を追加ということでございます。9番目許可DSケースはない施設に対する担当による規制
0:02:46	高度の確認など、確認者については、例えば、個別に整理して、それぞれ何をもとに判断したのかの根拠及び判断基準を明確にすること。
0:02:56	ということで、衛藤すいませんタテdownこっちかまとめた形でちょっと大井で書いてるところもございましたけれどもきちんとそれぞれ建屋ごとに、何をもとに、どう判断したのかということがわかるような記載をと。
0:03:09	ということでございます。10番目F-1断層普通だとその他の横断扱いの扱いを検討の入口整理室の扱いとした根拠を明確
0:03:21	で11番目、直下技術ケースがない施設に対するこういう書類の確認つきまして、近くの技術を適用した場合の固有周期を示しているんだけど、この検討の目的対象、何を明らかにするのかを明確にして、この検討のですね、用いている
0:03:40	そのオフィス系と提供した場合も、すいませんいっぺん製造の速度を適用して、何をしようとしてるのかと。
0:03:50	いうことを明確にすることということでございます。2番目、こういう所の確認結果は全般的な扱いでなくて地盤応答がメインとなると、ということなんですけど、位置付けを明文することで、ということでございます。
0:04:03	13番目追加共済のPS検層のデータあったんについて、説明を行って踏まえて統一した説明をということでいただいとるところでございます。
0:04:11	それから次ベッショにいやあこれそうですね。主2、別紙だと思うんですけどここは本部って書いてないんですけども、各建屋における会社に移して、基本損益版の設定料金を説明するか。

0:04:27	ということでございます。それから、360 ページ目の文章に記載してるにつきまして受注の通知の対応をとりまして、どこに書いてるかわかるようにという施策を記載すると。
0:04:37	ということで 16 番で 24 だけアノ大戸スペックとの傾向に差異が生じているんだけど、これに対する考察を 306307 人追加すると。
0:04:47	ということです。日次人事に対する、今までの積設計の扱いについて、考え方、
0:04:55	これ設計段階でのその判断するということなんですけれども、その考え方を明確に記載すること。
0:05:05	ということで、これ冒頭の制定するアオキ、米ともリンクするところというふうに認識してございます。
0:05:13	全般にですねこういう記載につきまして、何をもとに判断して、その結果はどこに記載するのかといったようなところが、
0:05:25	でもちゃんと表続ようというのを繰り返しおっしゃっていただいて我々、対応がまだちょっと不十分なところがあるということも認識いたしますし、申し訳ございません。ちょっと引き続き、きっちりと対応して参りたいと思います。以上でございます。
0:05:46	はい。規制庁の岸ますご説明ありがとうございます。振り替えについて何か規制庁側から意見等ありますでしょうか。
0:05:54	規制庁カミデですけど。
0:05:57	14 番なんかは、
0:05:59	何かもう、何か前から言ってるような感じで、
0:06:04	すよね、なんか。
0:06:06	なんでまだ対応されてないんですたっけ。
0:06:17	はい。原因の方でございます。これ、あれですよ。本日、コメント
0:06:22	すいません本日の議論であったわけですね流動化処理の大井。
0:06:27	上に入ってるのかどうかといったようなところですねと。
0:06:32	そうですね、わかるようにということで、すみません全般にちゃんと
0:06:39	根拠がわかるようにということで、すみませんちょっと見直した全体でここに限らずちょっとタカダというふうな認識はあると思ってございますので対応して参りたいと思います。申し訳ありません。
0:06:53	よろしいですか
0:06:54	イシイは、ちゃんと聞いてなかったんですけど
0:06:58	これ稼ぎ要件としてこれは、入力処理増の条文入ってるのかなあという、どうかわからないよねこの記載ではというコメントもいただいて、そこ

	はやっぱり必要だよねということなんだというふうに認識してご います。これに限ったことじゃなく、
0:07:15	ちょっとわかるように書く必要があるという認識でございます。
0:07:19	規制庁全体ってということだとすると、結構前から、どうなってるのって いう話等、
0:07:26	あとその僕には、別にこれで設定してますっていう、以上で終わるんじ ゃなくて、例えば減衰なんかは、これはもう3%でやっています。
0:07:38	一方で、減衰のところで言うと、他にもいろんなパーセンテージの話をし てますよね。それでもう、
0:07:45	ここの非線形性を見るに対しては、今この設定条件でいいんだって いうところまで説明してくれと。
0:07:53	いう話まで前からしてるんですよ。それは認識いただいていますか。
0:08:00	県の方でございます。そこは、イダというのは目的に照らして、これ でいいんだということを説明することということですね。
0:08:11	はい。
0:08:23	ちょっとだからそれで機能でございます。検討の前提条件っていい ますかその条件に対して、
0:08:34	それがなぜそうなのか、それで目的が達成できるのかということにつ いて、特に動き得るパラメーターで、それでいいのかと、いうことが容易に
0:08:50	人として想定されるものについては特に気をつけて、ちょっと根拠を記 載していかなきゃいけないということだと認識していて、
0:09:00	それができてないよねというご指摘だと認識しました。
0:09:08	前から言ってるようになっておっしゃるのはその通りでございます。ち ょうともう一度聞き直して、記載を規定していきたいというふうに思 います。申し訳ありません。以上でございます。
0:09:22	私から、規制庁浜崎ですちょっとそういう意味では、
0:09:28	担当者和我々で、ある意味あうんといいますか、なっちゃうんでは我 々ももっとここ詳しくというか細かく、
0:09:37	それで言わないといけなかったのかもしれませんが、例えば14番 の現状表層地盤の設定条件というのは、
0:09:45	今日の資料でいうと296ページにですね、書いてあるんですけども、
0:09:50	添付書類のどこどこ及びどこどこにシミズ設置を仮定と。
0:09:56	しか書いてなくて、
0:09:58	これで、ある意味わかる人はわかるんですけど大方の人はわかん ないんですね。

0:10:04	具体的には例えば農産が文章読んでもらって、この今の記載で、表層地盤の物性の設定条件って、
0:10:14	本当にわからないんですけど、多分わからないと思うんで、
0:10:18	ちょっとその現状の記載で足りてないところについては、やはりまず県の方ですね、きちんとそこを精査してもらいたいというのが趣旨です。
0:10:29	よろしいですか。
0:10:31	はい、出野でございます。はい、承知いたしましたおっしゃる通りです。
0:10:37	はい。
0:10:41	規制庁岸野です。10番より上をもう1回映し出してもらっていいですか。
0:11:29	出張の岸です。10番なんですけど、
0:11:32	検討の入口で整理し、その扱いとした根拠という、その扱っていうのを具体的に、
0:11:38	何を指しているんです。
0:11:49	荻野でございます。ここの議論はハダsafeつ断層は、最初に、この検討において、
0:12:00	このえっとですね、本文のところ、あれですね。
0:12:06	前段で伝えている。
0:12:10	考え方を明解にすることということだったというふうに思ってるんですけども。
0:12:19	規制庁のチームです。
0:12:24	岩盤物性の後ろの方の参考資料だったかと思いますが、
0:12:29	F-1断層ユフ2断層その他の断層の特徴なんかを整理したくだけりがあるって、
0:12:35	うん。
0:12:36	その扱いとした根拠というのがひょっとしたら、F-1断層FB断層は明らかにずれが大きいんで、これで区分はするけれども、他の断層は区分しませんよというようにも、
0:12:49	今、読めるような説、文章が10番の文章かなと思っています。ただ先ほどのやりとりの中では、F-1断層F2断層だけでなく他の断層も、
0:13:00	それが地盤モデルに与える影響を踏まえ、
0:13:06	検討すべき影響検討すべき対象として位置づけるという説明があったかと思っていますので、そういった
0:13:14	ことを意味して、
0:13:16	%そこを明確に書いていただければと思うのですけれども。

0:13:23	そうですか。はい。
0:13:25	ちやう。
0:13:27	通りなので、F-1 断層F2 断層を、だけでなくその他の断層について
0:13:41	も、
0:13:41	を、
0:13:45	この影響検討の対象とすることを、内整理とかそそういう表現、
0:13:52	弁当でしょ。はい。規制庁の岸野です。
0:13:56	原文でもそういう意味で読めばそう読めるなと思いながら今見てたんですけど、
0:14:01	はい。今言われたような
0:14:04	修正の方がより明確になるかなと思います。
0:14:06	動きも、
0:14:08	検討の対象と。
0:14:11	はい。
0:14:12	うん。すいません。口挟んでごめんなさい六ヶ所金どうぞ。
0:14:58	ここを書かしていただくとすると、根拠を明確にしろというよりは考え方を明確にすることに割と近いもので、井口で整理して示すこととこちらの方が多分実態にあるのかなとは思ったんですけども。
0:15:11	成長キシダですはい。その方がいいかなと思います。その根拠というのがちょっと何を指すのかなと今見ても、
0:15:18	はい。その修正でいいと思います。私から以上です。
0:15:24	はい。規制庁浜崎です。7 番から先ほど
0:15:28	キシノとオオハシさんのやりとりの中で、G14 については、
0:15:35	今 1ヶ所しか原則をなくって、ここ南北断面、東西断面ともにSs-F6 断層の方、
0:15:46	直下にある条件じゃないですかで、
0:15:48	新たな検層を行うような、
0:15:52	ことも含めて、
0:15:55	検討しますっていう話だったんですけども、
0:15:58	資料の 540 ページ 2、追加のPS検層の例のレイアウトがある中で、今 G14 の周りって、
0:16:08	北東と。
0:16:10	ごめんなさい、南東と北西かなに新規で、
0:16:14	追加をされようと思ってますが、これを見直すかもしれない。実

0:16:19	のかもしれないってのはよくないのかな。
0:16:21	見直す可能性があるというふうに理解しておけばいいんですか。
0:16:26	原燃のオガセです。すいません私から回答します。
0:16:30	ここの項自体は今この次 14 の南東と北西にあるやつは、いわゆるこの断層の上盤側をピュアに取るか下盤側をピュアに取るかという意味でいけば、
0:16:41	ここの場所で要は多量当たりうん、標準値なんですよね。十分というかちゃんととれてるだけになりますのでこの場所は問題ないかと思っております。また一方でちょっとハバサキさんから今ちょっとお話のあったところの記載で、
0:16:55	直下の遊びスペースを見てから、やりますっていう話になってましたけれども今日の岸野さんとのやりとりの中でちゃんとその評価とかこういう断層の影響みたいなところは盤と下盤跨るようなところについての検討というところのやり方からちょっと改めて整理をさせていただきますので、
0:17:13	まずはこの追加調査がない段階でもできるところってのはきちんとやっぱり書いてあげる必要があると思っております。その上でやっぱりこういう追加調査を踏まえてもそこを何ていうんすかね。やっぱりその考え方が正しいよねみたいなのところの話をちょっと
0:17:25	今後追加していくような形になっておりますので、何かしらは調査を待たずとも今のうちに書けることは書こうとは思っているところでございます。以上です。
0:17:34	はい。規制庁浜崎です。
0:17:38	ちょっとまだ現実的に資料なり、情報、
0:17:43	受けた上でのその話じゃないんです。教育、完全に理解し切ってるわけじゃないんですけど基本的には現状まず考えている、追加調査の位置は変えないと。
0:17:55	中出衛藤。
0:17:58	もうすぐもう少し説明調べていくということで理解をしましたので
0:18:03	ちょっと調査位置が変わるとかなると、またいろいろと時間的なものもありましてですねいろいろ問題があるんで早期に何か判断するあれされるのかなと思ってましたので、今確認しましたけど、
0:18:17	原点の方での考えがあるということで理解しました。
0:18:21	はい、以上になります。
0:18:30	規制庁の金です。今のやりとりで思ったんですけども、例えば次 14 の、

0:18:37	SF6 断層の下盤側でも追加調査の計画が、
0:18:42	これは、
0:18:43	上盤側の今あるPS検層だと、カバーしきれていない、下盤側の。
0:18:51	オオウチそ。
0:18:53	いいですね、なんかも、物性として抑えられるようなところを今計画しているということで、
0:19:00	よろしいですか。
0:19:02	はい、原燃のオガセです。イエスでございます。
0:19:06	はい、規制庁の内海です。
0:19:08	ちょっと具体的にどのそうかって言えばよかったですけど基本的にはそれを睨んで今計画をされているということで理解しましたので、
0:19:16	はい。また後日ご説明お願いします。
0:19:19	他に振り返り。
0:19:21	よろしいですか。
0:19:25	はい。うん。振り替えについての確認は以上になりますので、
0:19:31	ここまでの資料全般を通じて何か規制庁側から、
0:19:38	ありますでしょうか。
0:19:42	はい。
0:19:43	特にこちらありませんということで、日本原燃側から何かありますか全体を通じて、
0:19:51	萩野でございます。当協会のところにございません六ヶ所なんかありませんでしょうか。
0:19:57	日本原燃です。六ヶ所側からも特に何もありません。
0:20:02	はい。
0:20:03	それではよろしければ本日のヒアリングはこれで終了したいと思います。お疲れ様でした。どうもありがとうございました。